

平成 1 6 年度
神戸大学附属図書館年次報告

平成 1 7 年 5 月

編集：神戸大学附属図書館評価委員会

* 附属図書館ホームページにも掲載

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/overview/>

平成16年度神戸大学附属図書館年次報告

0. 附属図書館活動の達成度評価表 p . 1

1. 学習・教育支援

- (1) 開館サービス p . 5
- (2) 学生用資料整備 p . 7
- (3) 資料提供サービス p . 8
- (4) 情報リテラシー教育の推進支援 p . 1 0
- (5) 設備・機器の整備 p . 1 1

2. 学術研究支援

- (1) 研究用資料の整備 p . 1 4
- (2) 電子的情報基盤の整備 p . 1 6
- (3) 蔵書目録データベースの整備 p . 1 8
- (4) 資料の保存 p . 2 0
- (5) その他の研究支援サービス p . 2 1

3. 社会連携・情報発信

- (1) 一般市民への資料提供サービス p . 2 2
- (2) 震災文庫 p . 2 2
- (3) 電子図書館システムによる情報発信 p . 2 4

4. 管理運営等

- (1) 図書館組織と運営 p . 2 6
- (2) 事務組織と人事管理 p . 2 8
- (3) 予算及び財務会計業務 p . 3 2
- (4) 施設整備・システム整備 p . 3 4
- (5) 図書館界での諸活動 p . 3 7

<付録>

基本統計表	p . 3 9
蔵書・受入等の現況（各館室別）	
サービス業務の現況（各館室別）	
電子的情報サービスの現況	
図書館組織図・事務組織図	p . 4 2
運営委員会等諸会議（議題一覧、委員名簿）	p . 4 3
附属図書館予算・決算表（運営経費、資料費）	p . 5 0
附属図書館活動日誌	p . 5 2

0. 平成16年度附属図書館活動の達成度評価表

平成16年度附属図書館の活動総括として、附属図書館年次計画に対する達成度自己評価表を示す。

全学期中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己評価	自己評価判断理由
<p>大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4)教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 教育設備、図書館、情報ネットワーク等の活用・整備の具体的方策 ・全学共通教育等の実施に必要な図書館機能を整備するとともに、教養・専門図書、映像音響資料等の学生用資料を充実させる。</p>	<p>・社会科学系図書館の増築により、開架閲覧室及び書庫を拡充、閲覧席及び資料収容力を確保する。(H16)(附属図書館) ・総合図書館において、学習支援に関わる諸機能を見直し、その計画的な向上を図る体制を構築する。(H16)(附属図書館) ・各図書館室の老朽化した閲覧机、閲覧椅子、視聴覚機器、情報端末を計画的に更新する。(H16-21)(附属図書館) ・関連部局建物の改修計画等に併せて、閲覧室及び書庫の拡張、学習環境の改善、空調設備の更新を図る。(H16-21)(附属図書館) ・全学共通教育のシラバス掲載図書について、確実に提供できる収集体制をとる。(H16-18)(附属図書館)</p>		<p>7～9月に移転作業を行い、予定通り10月に増築部分をオープンした。閲覧席は213から408へほぼ倍増した。資料収容力634千冊の集密書架を新たに設置し、全館の資料収容力は1,424千冊とほぼ倍増した。 全学共通教育対応機能を担う「総合図書館」を組織上独立させ、事務体制も強化(課長の常駐、情報リテラシー係の配置)した。学生用図書選定体制・ガイダンス実施方法等を見直しを行った。 社会科学系図書館において、増築を機に一定の整備を行った。また、各館室について部局長裁量経費等による整備計画を12月の運営委員会で決定し、年度末にかけて実施した。 部局長裁量経費等による整備計画を12月の運営委員会で決定し、年度末にかけて実施した。具体的には、総合図書館・医学分館の学習環境改善、自然科学系図書館の既設建物有効活用、人文科学図書館・保健科学図書室の資料収容力増強、等であり、各館室の問題点を一定程度解決することができた。併せて、17年度以降の要整備事項を洗い出し、17年度予算要求に反映した。 各館室の学生用図書資料整備を抜本的に見直し、学習支援に必要な資料・予算規模を明らかにする作業を行った。また、第2次追加配分予算の一部を特にシラバス対応資料購入費とし、必要資料を購入した。</p>
<p>(6)学生への支援に関する目標を達成するための措置 学習相談、助言及び支援の組織的対応に関する具体的方策 ・附属図書館においては、資料提供や情報検索などのサービスの迅速化と高度化を図るとともに、情報教育を積極的に支援する。</p>	<p>・情報リテラシー教育支援体制を強化し、入学段階・教養教育・学部専門教育といったレベルや、専門分野を考慮した、きめ細かなオリエンテーション、ガイダンスを実施する。(H16-18)(附属図書館) ・全学必修科目「情報基礎」において、図書館を通じた情報アクセスに係わる部分を担当し、カリキュラムの一環としての情報リテラシー教育の推進を支援する。(H16)(附属図書館) ・学生が自学自習により情報リテラシー技術を身につけられるよう、図書館ホームページ上の情報提供を強化する。(H16-17)(附属図書館) ・社会科学系図書館の書庫に学部学生も入庫できる体制を整え、全館を原則開架とする。(H16)(附属図書館) ・資料に対する主題アクセス環境を改善するため、社会科学系図書館の資料分類を他館と同じNDC方式に変更する。(H16)(附属図書館) ・各図書館室の開架及び書庫内図書について、目録遊及入力を計画的に推進する。(H16-21)(附属図書館) ・海外図書館との図書館間相互利用を拡大する。(H16)(附属図書館) ・社会人学生等の利用動向を把握したうえで、夜間開館・休日開館の延長及びサービス向上を検討する。(H16-18)(附属図書館)</p>		<p>担当の情報リテラシー係を増員し、最も学生数の多い総合図書館に配置した。春期・秋期のガイダンスは日程・内容等を見直し、昨年度より多くの参加者を得た。 すべての1年次生に、半コマの講義を行った。補講を含め、前期に予定通り完了した。 ガイダンス開催の都度、プレゼンテーション資料等をHPにアップし、ガイダンスには参加できなかった利用者の自学自習に供することとした。 10月の増築オープンに合わせ、社会科学系図書館書庫に学部学生も入庫できることとした。全館が原則開架(貴重書等を除く)となった。 10月の増築オープンに合わせて実施した。特に、新規受入図書だけでなく、開架図書約4万冊について適切的な分類変更作業を行い、開架図書は変更当初から一元的にアクセスできるようにした。 予算の関係で例年より作業開始が遅れ、また規模を縮小したが、年度後半より本格的に実施した。当初の入力目標(3万冊)は3月末までに達成の見込みである。 国立大学図書館協会の「Global ILL Framework」プロジェクトに参加し、相互利用のチャネルを米国内大学図書館に拡大した。 夜間・休日の利用動向を分析するなどして、17年度からの延長等を検討した。その結果、17年度から人間科学図書館で新たに休日開館を実施することとした。全館的な再検討は次年度に引き続き行うこととした。</p>
<p>2 研究に関する目標を達成するための措置 (1)研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置 目指すべき研究の方向性を実現し、研究水準及び成果を検証するための具体的方策 研究活動支援のための具体的方策</p>	<p>・各学問分野の世界的水準の二次情報データベースを利用して、最新の研究情報を適確かつ迅速に入手できる体制を整備する。(H16-18)(附属図書館)</p>		<p>Web of Science(自然科学系)等のデータベースを今年度も継続して利用供した。さらに11月より、化学関係のデータベース SciFinder を新規導入した。</p>
<p>(2)研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置 学術研究推進機構と「全学評価組織」の設置 ・全学的立場から学術研究を推進する学術研究推進機構の役割を明確にし、研究推進拠点形成における基本戦略を実施する中核組織としての機能を更に整備する。同時に、研究についての評価、点検、改善のためのシステムを開発する。</p>	<p>・専門的情報サービスが行えるよう、専門主題に関する一定の知識及び専門資料に関する知識を持った職員の育成を図る。(H16-21)(附属図書館) ・引用索引データベースを導入し、本学の研究成果の世界的な評価を客観的なデータとして常に把握できる体制を整備する。(H16)(附属図書館)</p>		<p>国立情報学研究所の主催する各種研修、専門主題知識の研修(漢籍・古典籍・医学資料等)に関わる研修に、できる限り職員を派遣した。 世界的な引用索引データベースであるWeb of Science(自然科学分野)を引き続き導入した。</p>

全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己評価	自己評価判断理由
<p>研究に必要な設備等の活用と整備に関する具体的方策 ・附属図書館においては、電子資料等を含む学術情報の収集と提供、外国雑誌センター館機能、他大学等との協同及び電子図書館システムによる情報発信など、研究支援機能の整備・強化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電子ジャーナルや基本的な二次情報データベース等の電子情報の整備を進め、全学的な学術情報基盤の構築を図る。(H16-18)(附属図書館) ・人文・社会科学分野の学術雑誌に関する全国共同利用の拠点図書館として、外国雑誌センター館機能の整備に努める。(H16-21)(附属図書館) ・一次資料(図書・雑誌等)の十分な整備に努める。特に、各専門分野の基幹の部分に欠落が生じないよう、継続的かつ系統的な収集体制を構築する。(H16-21)(附属図書館) ・重複資料、不用資料等の処分を計画的に実施し、全館の有効なスペース利用を図る。(H16-21)(附属図書館) ・蔵書目録(OPAC)の整備、新着図書情報の速やかな提供と及び遊及入力のための計画的推進に努める。(H16-21)(附属図書館) ・本学の蔵書では満たされない情報要求にも十分応えるため、海外を含めた図書館間相互利用の拡大と、電子的手法を駆使した迅速な提供体制を構築する。(H16-18)(附属図書館) ・電子図書館システムのコンテンツ充実と検索機能の高度化を図る。(H16-21)(附属図書館) 		<p>約5,200誌の電子ジャーナルを学内から自由にアクセスできる状態にある。データベースについては、化学分野のSciFinderを11月から新たに導入した。2005年の電子ジャーナルコンソーシアムへの参加方策について、全学会議で検討が行われた。</p> <p>約1,000誌の外国雑誌を購入し、バックナンバーも含めて全国に複写等の利用サービスを行った(ただし、社会系図書館増築移転に伴うサービス停止等あり)。利用サービス向上のため、文献複写作業の外部委託化を検討した。</p> <p>研究用資料費は基本的に各部署・研究者の予算に依存しているが、各部署予算の厳しさから多くの部署で大幅な減となった。打開に向けて、大型資料を計画的に整備するための予算要求等を行った。</p> <p>法人化前に大幅な処分を行ったので今年度は大規模なものはないが、経営研究所図書館・人間科学図書館で若干量を処分した。17年度以降の計画策定に着手した。</p> <p>蔵書目録提供システムは安定的に稼働し、新着資料の整理も順調である。遊及入力は予算の関係で例年より作業開始が遅れ、また規模を縮小したが、年度後半より本格的に実施した。当初の入力目標(3万冊)は3月末までに達成の見込みである。</p> <p>国立大学図書館協会の「Global ILL Framework」プロジェクトに参加し、相互利用のチャンネルを米国内大学図書館に拡大した。</p> <p>震災資料・経済関係資料・学内研究成果のコンテンツ作成を進めた。検索機能面では、高精度・大容量画像データの提供に新方式を導入した。</p>
<p>3 その他の目標を達成するための措置 (1) 社会との連携に関する目標を達成するための措置 地域社会等との連携・協力、社会サービス等に係る具体的方策 ・附属図書館においては、夜間及び休日開館を含め、資料提供等による生涯学習の支援を行い、地域社会への貢献を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学外者、一般市民への資料提供サービスの充実を図る。(H16-18)(附属図書館) ・附属図書館が所蔵する専門資料を地域住民に公開し、生涯学習等に利用できるようサービス環境の改善を図る。(H16-18)(附属図書館) ・地域の公共図書館との間で、相互貸出・横断検索・研修活動など、積極的な連携協力を図る。(H16-18)(附属図書館) ・「震災文庫」を地域住民や防災関係者等の幅広い研究ニーズに応えるため、資料の収集とデジタル化を更に進め、最大規模の関連資料コレクションとして、広く社会に公開する。(H16-21)(附属図書館) ・図書館所蔵貴重資料・学内研究成果情報のデジタル化を更に推進し、電子図書館から学内知的資源を社会に公開発信する窓口(ポータル)機能を整備する。(H16-18)(附属図書館) 		<p>4月より利用規程を改正し、一般市民の利用(閲覧・複写)を明記した。10月より総合図書館にて学外者への資料貸出を試行した。年度末に試行結果の評価を行い、17年度から海事科学分館を加えた2館に試行を拡大することとした。</p> <p>10月より総合図書館にて学外者への資料貸出を試行した。また、情報公開法の趣旨に基づき、一般市民の資料閲覧・複写は障壁なく行えるよう、関係規程を整備を整備した。</p> <p>兵庫県大学図書館協議会(会長館)で県下大学図書館の市民公開状況をとりまとめ、公共図書館に提供した。また、学外者への資料貸出試行のPRを、公共図書館を通じて行った。</p> <p>引き続き資料収集を進めた。資料デジタル化は予算の関係で着手が遅れたが、年度後半に集中的に実施した。震災10周年事業の一環として展示会・記念講演会を開催し、学外者を中心に900名近い参加者があった。展示会関連・震災10年関連で、マスコミでのとりあげが10回以上にのぼった。</p> <p>新たに科学研究費研究成果公開促進費の交付を受け、デジタル版「新聞記事文庫」のコンテンツを作成した。その他の貴重資料・学内研究成果のデジタル化は予算の関係で着手が遅れたが、年度後半に集中的に実施した。</p>
<p>地域の公私立大学等との連携・支援に関する具体的方策 ・近隣の公私立大学等が集合する会議等において、教育研究交流を推進するとともに、大学関係に関する様々な課題について意見交換を行い、問題解決にあたっての連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、兵庫県大学図書館協議会の中心的な図書館として活動し、県内公私立大学図書館との連携を強化する。(H16-21)(附属図書館) 		<p>引き続き協議会会長館をつとめ、総会・研修会活動等の運営にあたった。</p>
<p>業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置 1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 学部長等を中心とした機動的・戦略的な学部等運営に関する具体的方策 ・全学的な運営方針を踏まえ、学部等を機動的に運営するため、学部長等を中心とした学部等運営のほか、事務組織の企画立案への積極的参画、部局内委員会の役割の明確化を図り、学部長等の補佐体制を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館長と副館長、分館長、各館図書委員会の連絡を密にして一体的な図書館運営を図る体制を確立する。(H16-17)(附属図書館) ・附属図書館研究開発室は、各分野を専門とする学内外の研究者に委嘱して構成するほか、必要に応じて図書館の事務職員を加えることを検討する。また、先導的電子図書館システムや情報リテラシー教育等に関する研究開発とその実践応用を推進する。(H16-18)(附属図書館) 		<p>館長・副館長・分館長懇談会を適宜開催し、重要問題への意思統一を図った。また、各館室図書委員会の報告を運営委員会で必ず行うこととした。初期の目的は本年度内に前倒しで達成されたと考えている。</p> <p>研究開発室設置要項を改正し、体制・メンバーを一新した(委員への事務職員の選任は行っていない)。電子図書館システムに関わる3部会を下部に設置し、体制整備はほぼ完了した。</p>
<p>全学的視点からの戦略的な学内資源配分に関する具体的方策 ・経営・財務分析を行うとともに、大学予算の学内配分方式の見直しを行い、教育研究活動の活性化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の各種機能及び業務体制を見直し、全体的な観点から施設・設備・蔵書・人員の適切な配置を検討する。(H16-19)(附属図書館) ・図書館管理運営経費の大部分を部局負担金で賄う現行方式を改め、共通経費化を図る。(H16)(附属図書館) 		<p>年度当初に、総合図書館の強化等、人員配置の見直しを行った。7月に「事務改善プロジェクト」を設置、事務連絡会議プロジェクトに対応して係ごとの業務評価を実施する体制をとった。</p> <p>今年度より全学共通経費化された。</p>

全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己 評価	自己評価判断理由
国立大学間の自主的な連携と協力体制に関する具体的方策 ・各種ブロック会議への参加や共同研修、人事交流等を通じ、大学運営に関する共通事項に関して情報交換を行い、問題解決に当たっての連携と協力を図る。	・国立大学図書館協会を中心とする電子ジャーナルコンソーシアム、図書館間相互貸借活動、各種共同研修等の連携・協力を維持・発展させる。(H16-21)(附属図書館)		国立大学図書館協会総会で、引き続き監事館に選出された。新たに設置された「人材委員会」「経営問題委員会」にも部課長が委員となった。電子ジャーナルコンソーシアムにも引き続き参加した。
3 教職員の人事の適正化に関する目標を達成するための措置 事務職員等の採用、養成、人事交流に関する具体的方策 ・特別な知識を必要とする者(例えば情報関係、特許関係、訴訟関係、診療報酬請求関係、労務管理関係等)の採用方法を検討する。	・地区の職員採用試験に参加し、専門性(図書館学、情報技術、主題知識等)を考慮した図書系職員採用を行う。(H16-21)(附属図書館)		近畿ブロックの合同図書系二次専門試験の実施・運営に参加し、新規採用を行った。
・専門性の向上を図るための専門研修の実施等について検討する。	・新しい図書館経営等に関する知識のほか、専門的情報サービスが行えるよう、専門主題に関する一定の知識及び専門資料に関する十分な知識を持った職員の育成を図る。(H16-21)(附属図書館)		国立情報学研究所の主催する各種研修、専門主題知識の研修(漢籍・古典籍・医学資料等)に関わる研修に、できる限り職員を派遣した。また、附属図書館独自の「初任者等研修」(3日間)を実施した。
4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 事務組織の機能の見直しに関する具体的方策 ・業務の専門性や効率性を向上させるとともに、大学運営を的確に推進するため、戦略企画室や学部との連携を密にした事務体制を整備する。	・学制的な観点からの事務部門再編成及び学術情報に係わる専門職としてスタッフ的な組織形態の可能性について検討を進める。(H16-18)(附属図書館)		7月に設置した「事務改善プロジェクト」で検討することとしたが、事務連絡会議プロジェクトとの対応等もあり、16年度中の具体検討はできなかった。
事務処理の効率化と合理化に関する具体的方策 ・各種事務処理を見直すとともに、平成17年度以降に学内ネットワークのアップグレードにより情報の共有化を図り、文書管理、会議の開催通知、会議室の予約管理など事務処理の簡素化と迅速化を図る。	・業務処理手順の標準化(資料分類体系の統一など)を進める。(H16-17)(附属図書館)		社会科学系図書館の分類体系を他館と同じNDC分類に変更した。
業務の外部委託等に関する具体的方策 ・業務処理の点検を行い、職員の業務を分析し、費用対効果を考慮して業務の外部委託を実施し、業務の合理化に努める。	・利用者サービス部門は、自動化をさらに推進(自動貸出装置・セルフコピー機等)し、効率化を図る。(H16-18)(附属図書館)		海事科学分館にセルフコピー機を導入した。社会科学系図書館では増築によるカウンター増加により、開架図書の貸出は自動貸出装置(15年度未導入)を基本にすることとした。
業務の外部委託等に関する具体的方策 ・業務分析・コスト分析を進め、業務品質の維持及びコスト削減が期待される部分について、段階的なアウトソーシングの導入を検討する。(H16-18)(附属図書館)	・業務分析・コスト分析を進め、業務品質の維持及びコスト削減が期待される部分について、段階的なアウトソーシングの導入を検討する。(H16-18)(附属図書館)		外国雑誌センター館に係わる文献複写業務のアウトソーシングについて検討し、17年度から実施予定
2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 管理的経費の抑制に関する具体的方策	・対利用者への各種連絡(督促状等)を電子メールに切替、郵送料の節減を図る。(H16)(附属図書館)		予約資料の到着等は相当部分電子メールに移行した。ただ、最も量の多い延滞督促は、学生が日常利用するアドレスの把握にめどがたたないことから実施できなかった。
3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 資産の効率的運用を図るための具体的方策 ・継続的な施設の点検と評価を踏まえ、教育研究活動に応じた効果的なスペース配分など、施設の有効活用を推進する全学的方針の確立を図る。	・貴重図書の管理・保管体制を整備する。(H16-17)(附属図書館)		社会科学系図書館増築により、空調等が完備された貴重書庫が完成した。
自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 評価の基本的な目標を達成するための具体的措置 合理的な評価システムを形成するための具体的方策 部局レベル・部局において「評価委員会」を設置し、個人や部局の基礎指標並びに部局の重点課題について評価を行う。	・図書館活動全般に及び自己点検評価と重点課題に即した自己点検評価、外部評価を計画的に実施し、全学的評価室の再評価を受ける体制を整備する。(H16-21)(附属図書館)		法人化前に大幅な処分を行ったので今年度は大規模なものはないが、経済経営研究所図書館・人間科学図書館で若干量を処分した。17年度以降の計画策定に着手した。人文科学図書館開架図書等の資産点検を行った。
・評価結果については、適切な基準を定めて公表する。	・利用者アンケートを定期的実施する等により、利用者ニーズを正確に把握する体制を整備する。(H16-18)(附属図書館)		来年度実施を目指して年度内に方式を検討した。
2 情報公開等の推進に関する目標を達成するための措置 大学情報の公開・提供及び広報に関する具体的方策	・「震災文庫」について、資料収集と資料デジタル化を更に進め、地域住民や防災関係者をはじめとする広いニーズに応える最大規模の関連資料コレクションとして、広く一般に公開する。(H16-21)(附属図書館)		引き続き資料収集を進めた。資料デジタル化は予算の関係で着手が遅れたが、年度後半に集中的に実施した。震災十周年事業の一環として展示会・記念講演会を開催し、学外者を中心に900名近い参加者があった。展示会関連・震災10年関連で、マスコミでのとりあげが10回以上にのぼった。
・評価結果については、適切な基準を定めて公表する。	・図書館サービスの基礎的数値を指標化し、蓄積・公表する。(H16-17)(附属図書館)		15年度「年次報告」の一環として、基礎的数値をHP等で公開。16年度報告に向けて指標の再検討・増強を行った。
2 情報公開等の推進に関する目標を達成するための措置 大学情報の公開・提供及び広報に関する具体的方策	・図書館所蔵貴重資料・学内研究成果情報のデジタル化を更に推進し、神戸大学電子図書館システムが本学の知的資源を社会に広く公開する窓口(ポータル)機能を持つ。(H16-21)(附属図書館)		新たに科学研究費研究成果公開促進費の交付を受け、デジタル版「新聞記事文庫」のコンテンツを作成した。その他の貴重資料・学内研究成果のデジタル化は予算の関係で着手が遅れたが、年度後半に集中的に実施した。

全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己 評価	自己評価判断理由
<p>その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 施設設備の整備等に関する目標を達成するための措置</p> <p>施設設備の有効活用に関する具体的方策</p> <p>施設の点検と評価を継続的に実施することにより既存施設の有効活用を図る。</p>	<p>・重複資料、不用資料等の処分を計画的に実施し、累積的な蔵書増加を抑制、書架の有効利用を図る。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>法人化前に大幅な処分を行ったので今年度は大規模なものはないが、経済経営研究所図書館・人間科学図書館で若干量を処分した。17年度以降の計画策定に着手した。</p>
<p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</p> <p>労働安全衛生法、学校保健法等を踏まえた安全衛生管理、保健管理及び事故防止に関する具体的方策</p>	<p>・図書館施設・設備の安全点検に努め、大学全体の防災計画に則り、附属図書館の防災計画を策定する。特に、24時間利用時の安全管理を徹底する。(H16)(附属図書館)</p>		<p>全館の安全点検を実施し、可能な限り措置を行った。増築された社会科学系図書館で、防火管理体制を再整備した。24時間開館を行っている医学分館・増床された社会科学系図書館に監視カメラを整備した。</p>

1. 学習・教育支援

(1) 開館サービス

16 年度の開館時間は次の通りである。

		総合・国際	社会科学系	自然科学系	人文科学	人間科学	研究所	医学分館	保健科学	海事分館
通常期	平日	9:00-20:00	9:00-20:00	9:00-20:00	9:00-20:00	9:00-20:00	9:00-17:00	9:00-21:00	9:00-20:00	9:00-20:00
	土曜	12:30-17:00	11:00-18:00	12:30-17:00	12:30-17:00	休館	休館	9:00-17:00	11:00-14:00	12:30-17:00
	日曜	休館	11:00-18:00	休館	休館	休館	休館	休館	休館	休館
休業期	平日 17:00 まで 土日休館	8 月のみ平日 17:00 まで 土日休館	平日 17:00 まで 土日休館	平日 17:00 まで 土日休館	平日 17:00 まで 土日休館	通常期と同じ	通常期と同じ	平日 17:00 まで 土日休館	平日 17:00 まで 土日休館	
試験期 特別開館	平日 21:00 まで 延長、日祝 12:30-17:00	平日 21:00 まで 延長、日祝 11:00-18:00	平日 21:00 まで 延長、日祝 12:30-17:00	平日 21:00 まで 延長、日祝 12:30-17:00	平日 21:00 まで 延長	通常期と同じ	なし	なし	平日 21:00 まで 延長、日祝 10:00-18:00	

< 入館状況 >

< 平日時間内の 1 日あたり入館者数 >

	総・国	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事
H16 / H15	1.17	1.08	0.97	1.02	0.98	----	0.94	0.95	0.85
16 年度	1533.8	554.5	503.8	233.1	335.6	----	268.7	282.8	175.0
15 年度	1312.4	511.3	517.1	227.5	342.3	----	286.8	298.6	206.6

(研究所図書館は入退館用ゲートがないため、正確な入館者統計が採取できていない)

- フルサービス開館時間帯の 1 日あたり数値で 15 年度と比較すると、上表のようになる。海事科学分館が目立って減少しているのは、16 年度より学部 1 年次生が主に六甲台キャンパスで履修するようになったことに主因がある。一方総合・国際文化化学図書館は、海事科学部生の利用を考慮に入れても、なお大きな伸びを示している。また、増築した社会科学系図書館でも入館者増となっている。
- 学生が授業開始前に短時間であっても図書館利用ができることが望ましいとの見地から、開館時刻の見直しを検討した結果、平成 17 年度より 8:45 に開館することとした。

< 夜間開館 >

- 通常期・休業期・試験期とも前年どおりの時間設定であった。研究所図書館以外は夜間開館を実施しているが、医学分館のみ 21:00 まで(4 時間)、他は 20:00 まで(3 時間)である。
- 17 年度に向けて、利用動向もにらみながら夜間開館延長を検討したが、17 年度当初からの実施は見送った。

< 土曜・日祝開館 >

- 土曜開館について、15 年度まで、総合・国際、自然科学系、人文科学、保健科学の 4 館では 3 時間、海事分館では 4 時間のみの開館であった。利便性においても業務効率においても中途半端で

あることから、16年度より上記のうち保健科学を除く4館を4.5時間の開館と改めた。保健科学図書室は休日の校舎立入が管理上限定されているため、従来そのままとした。下表の通り、上記4館では土日開館時の1日あたり入館者数が増加しており、延長効果があった。

- ・ 通常期の日曜開館は従来通り社会科学系図書館のみであるが、試験期の日祝開館について拡大を行った。15年度は海事分館のみ日祝開館、社会科学系・自然科学系が日曜のみの開館であったが、16年度は5館で試験期の日祝開館を行った。
- ・ 人間科学図書館は校舎管理上の問題から、16年度も土曜開館が実現しなかった。年度後半にいたって発達科学部との調整を行い、17年度から他館室と同様の土曜開館（試験期は日祝も開館）が実施できる予定である。

< 土日開館時の1日あたり入館者数 >

	総・国	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事
16年度	58.3	215.3	112.3	32.1	----	----	106.9	21.1	55.2
15年度	28.1	218.7	80.2	23.6	----	----	110.1	20.7	35.7

< 24時間開館（無人開館） >

- ・ 24時間入退館システムによる（利用者カードによる入退館管理）開館である。自然科学系図書館の利用実績が著しく少ないという状況は15年度と変わらない。

	導入	対象	延入館者	1日当たり
医学分館	H9	教職員、院生、医学科3年次生以上	16,260 人	44.55 人 (H15 38.4 人)
自然科学系図書館	H11	教職員、院生	343 人	1.01 人 (H15 1.48 人)

注) 自然科学系は改装工事のため25日間運用休止

< 時間外開館経費とサービス要員 >

- ・ サービスポイントの多い本学では配置人数が多くなることから、現行程度の時間外開館実施でも、図書館事業費の中で決して無視し得ない経費額となっている。
- ・ 15年度は大学院生雇用を縮小して外注業者との契約を主体にしていたが、16年度は社会科学系、医学分館のみ外注方式（休業期も時間外開館を行うため）とし、他館室は大学院生雇用とした。法人化に伴い、任用事務負担の軽減など人事事務改善が図られたことによるものである。

評価と課題

「大学図書館実態調査」結果によると、14年度において62.9%の国立大学が4時間以上の夜間開館を行い、また94.8%の国立大学が4時間以上の土曜開館を行っている。相対的に見ると本学の開館時間は短く、見直しの余地があるが、分散体制で多くのサービスポイントを抱えるため、対応が難しい。

その中で16年度は一部館室の土曜開館延長を行ったが、これにより入館者は確実に増加している。17年度からは開館時刻の前倒し、人間科学図書館の休日開館を行うが、社会人大学院生の増加など学生の多様化は進んでおり、さらなる見直しを求められる要因がある。利用動向を分析しながら対処していく必要があるが、効率的な実施には一律的な時間設定の見直しや経費負担のあり方の検討も必要である。

その他では、自然科学系図書館の24時間開館（無人開館）時の利用実績が16年度も非常に少なかった。電子ジャーナルの普及などサービス開始時との状況の差が背景にあるが、コスト面・安全

面から問題であり、見直しを必要としている。

入館者数は全体的に増えているが、とりわけ総合・国際文化学図書館の増加が著しい。昨年度来の重点的資料整備や情報リテラシー教育の拡充、総合図書館の体制強化が寄与していると思われる。一方、施設面では限界に近づいており、フロア面積を拡大するなどの学習環境整備が急務である。

(2) 学生用資料整備

館室別の蔵書数、受入図書冊数、資料費総額等は別添基本統計の通りである。

< 資料費予算と重点整備 >

- ・ 図書館予算（図書館セグメント）として各館室に配分する経費と、サービス対象部局から拠出された経費（部局セグメントの図書資料費）を合わせて、各館室の学生用資料整備を行う予算構造となっている。
- ・ 16年度は、図書館予算として4,100万円（第2次追加配分で特に学生用図書として措置された1,600万円を含む）を学生用資料費に措置した。15年度に比べ増額であるが、部局拠出分が減少しており、全体としては厳しい予算状況にある。
- ・ 17年度予算要求においては、学生用資料費の増額を最重要の新規事項として要求し、2,000万円の増が認められている。図書館予算（図書館セグメント）の学生用資料費は6,000万円規模となり、部局拠出分と合わせ、計画的で着実な資料整備を目指す。
- ・ 9月の予算第2次追加配分時に総合図書館及び自然科学系図書館に各450万円を措置し、特に立ち後れの目立つ自然科学系分野の学習基本図書の整備を行った（総合1,640冊、自然系1,228冊）。15年度の総合図書館重点整備（全分野約3,200冊）と同様に、図書館職員で分担して選書を行い、整理・装備（図書のカバーを保存）を委託して迅速な配架を進めたことは有意義であり、今後にとって貴重な経験となった。
- ・ 16年度重点整備図書の評価はまだ行えないが、15年度整備図書の貸出実績を見ると、重点整備の効果は非常に大きいと言える。

< 総合図書館開架図書の貸出状況 >

	配架冊数	延べ貸出回数	回転率
15年度重点整備分	3,111	6,465	2.08
全開架図書	84,027	53,064	0.63

* 配架冊数は参考図書等禁帯出のものを除く値

< 各館室の整備状況 >

H16受入	総合	国際	社会	自然	人文	人間	医学	保健	海事
図書冊数	6,251	1,069	3,526	2,174	400	522	547	475	1,058
雑誌種数	97	101	133	173	23	146	68	116	254

- ・ 各館室で関係部局のシラバス図書を購入した。特に、全学共通科目についてはシラバス掲載の参考図書を原則2冊づつ総合図書館に揃えることとし、シラバスと既所蔵情報との照合を行ったうえで、16年度シラバス分・17年度シラバス分それぞれ約100冊を購入した。16年度分は発注が年度初めになったが、授業開始時には配架されているよう17年度分は2月に選定・発注処理を行った。

< 選書体制と収集方針 >

- ・ 全学的視野に立った計画の不在、学生用資料・研究用資料切り分けの不徹底、継続資料の硬直化、など選書体制に関わる大きな問題の解決が求められる状況にあった。
- ・ 附属図書館運営委員会で「学生用資料整備に関する考え方」を審議・了承した。学生用資料を「各館室備付の学習用基本資料」「全学共通教育向け学習図書・教養図書」「各館室専門教育用図書」の範囲とし、選定における運営委員会及び各館室図書委員会の責任や選定方法の原則を確認した文書である。
- ・ 全学共通教育向け学習図書・教養図書は主に総合図書館で整備されるが、その選定方針の決定や蔵書評価は附属図書館運営委員会が全学的見地から行うこととした。また、各館室備付の学習用基本資料についての調整も運営委員会の担当事項とした。
- ・ 各館室図書委員会では継続資料（雑誌を含む）について、必要度の見直しと研究用資料との切り分けの作業を行った。また、今後備えるべき整備水準の検討も行き、17年度予算要求に反映させた。
- ・ 重点整備分（前述）については、図書館員による選書を15年度に引き続き行った。
- ・ 年度末の運営委員会で、「学生用資料整備計画大綱」を審議し、学生用資料の範囲、選定体制・方法、選定結果の周知・評価、運用上の留意点等について確認した。

評価と課題

図書館予算としては一定額を確保できたが、部局拠出分は減少しているため、学生用資料費全体は満足のいく水準には遠い状態である。学生用資料の整備のためには、全学共通予算による安定的な予算確保が必要である。17年度予算要求では増額が認められ、図書館セグメントの学生用資料費は約50%増となる。学生数等からすれば未だ十分な水準とはいえ、また部局拠出分の動向など不確実な点も残っているが、計画的で着実な整備を目指す一定の基盤を確立することができた。

満遍なく着実な新刊書購入が理想ではあるが、全体的に学習用図書が貧弱な現状では、選書の一貫性・効率性等の観点から重点的資源投入が有効である。16年度は自然科学系分野の重点整備を行ったが、17年度以降もその他の分野（人文科学など）で実施していくことが望ましい。

収集体制・方針について一定の整備が図られつつも、各館室とも学生用資料費予算は厳しく、重点整備分を除くと新刊書の選書を日常的に行える状況にそもそもないのが実態であった。継続資料の見直しについても、予算逼迫から必要以上の切り込みになっている部分もある。17年度は一定の予算増も得られ、今後はさらに具体的な収集方針を確立していく必要がある。また、整備状況を定期的にまとめ、整備方針に適宜修正を加えていくことが不可欠である。

(3) 資料提供サービス

入館者数、貸出冊数等は別添基本統計の通りである。蔵書目録データベースの構築及び相互利用サービスについては、2(3)(5)に後述する。

< 社会科学系図書館のサービス改善 >

社会科学系図書館増築（4(4)に後述）に伴い、資料提供サービスに以下の改善を加えた。

- ・ 資料分類を明治以来の独自分類から国内標準のNDC（日本十進分類法）に変更し、開架図書（約3万6千冊）についてはすべて分類変更処理を行った（書庫内図書は旧分類で凍結）。従来より主題分析深度が深まり、書架上のブラウジングが大きく改善された。また、開架図書の収容力も約5

万冊に拡大した。なお、約 60 万冊の書庫内図書は旧分類で凍結することとした。

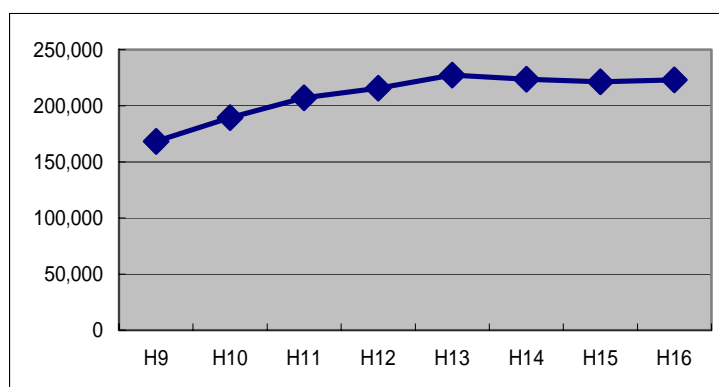
- ・ 雑誌バックナンバーを新館集密書庫に移動させたのを機に、配列をタイトル受入順から誌名順に変更した。これによりタイトルが明確であれば目録を検索することなくアクセスが可能となった。
- ・ 既設書庫について仮設書架撤去・通路確保等を行ったうえで、学部学生への入庫制限を撤廃した。これにより、学生全員が書庫内資料に直接アクセスできるようになった。

< 貸出サービス >

- ・ 経済経営研究所図書館で学生への貸出サービスを本格的に開始した。その他の館室では貸出冊数・期間に変更はない。

< 貸出冊数（学生のみ）経年推移 >

* 商船大、研究所など図書館組織外（当時）のものも合算した値



< 館室別学生貸出数 H15/H16 >

	総・国	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事
H16/ H15	1.15	0.98	0.95	0.89	0.95	0.74	1.07	0.99	0.92
16 年度	63,737	61,386	29,584	14,233	16,621	2,755	8,901	11,341	14,493
15 年度	55,490	62,837	31,171	15,903	17,504	3,067	8,311	11,462	15,813

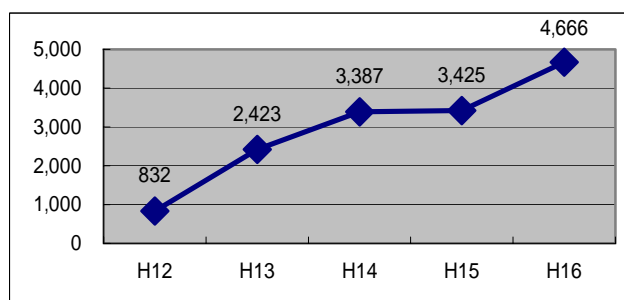
- ・ 総合・国際文化学図書館が大きな伸びを示している。入館者数（1(1)参照）の伸びとも照応しており、また資料重点整備（1(2)参照）も寄与していると認められる。
- ・ その他の館室では貸出冊数が若干減少しているところが多い。海事科学分館は1年次生の履修の関係で入館者が減少したが（1(1)参照）貸出冊数の減少率はそれほどでない。なお、社会科学系図書館は微減であるが、増築に伴い資料利用不能期間が長かったため、実質的には増加といえる。

< デリバリ（貸出図書配送）サービス >

- ・ 院生以上を対象（異キャンパス間は学部学生も）に、12年度からサービスを行っている。
- ・ 延べ申込み者数 2,431 人 貸出冊数 4,666 冊であった。利用件数は、年々増加している。

< デリバリサービス貸出冊数推移 >

* 12年度は後期から



評価と課題

社会科学系図書館の資料分類変更と学部生入庫許可は以前からの課題であったが、増築を機によりやく達成することができた。資料アクセス改善に加えて、全館的なサービス統一という意味合いも持つ。

資料の館外貸出数は、とりわけ学生サービスにおいては基本的指標の一つであるが、学生一人当たりの貸出冊数は約 12.4 冊である。大学図書館実態調査 (H15 年度) によれば国立大学平均で 9.56 冊、A クラス大学平均で 10.41 冊であるから悪い数字ではないが、学習を本分とする学生が 1 年間に借りる冊数として満足できる数値とはいえないと思われる。総合・国際文化学図書館での増加は、新刊書を適切に購入・配架すれば学生の利用を掘り起こせることを示しており、利用をさらに伸ばしていく余地は十分残されている。

デリバリサービス (貸出図書配送) の利用は年々増加しており、業務コスト等を勘案しながら、学部学生へのサービス拡大 (六甲台キャンパス各館間) を検討する時期に来ている。

(4) 情報リテラシー教育の推進支援

< 情報リテラシー教育支援 >

- ・ 16 年度より全学共通必修科目「情報基礎」が設けられたが、1/2 コマ (約 50 分) が「図書館システムの利用」にあてられ、5 月 21 日～8 月 11 日の間に計 27 回 (補講を含む) 情報リテラシー係職員が講義 (実習を含む) を行った。学部新生全員 (2,708 名) が受講対象であった。
- ・ 同科目テキストの該当部分 (約 10 ページ) の執筆も情報リテラシー係で行った。

< オリエンテーション、ガイダンス >

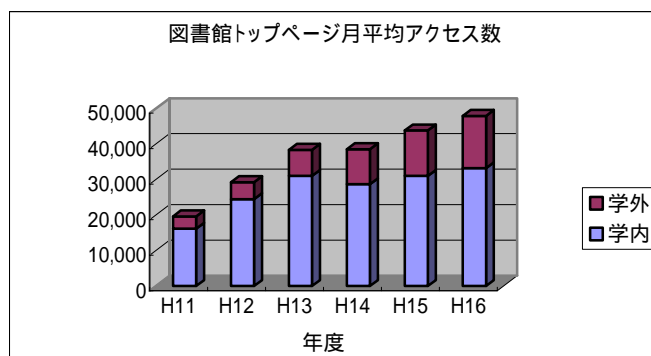
- ・ 情報リテラシー係を中心に以下のガイダンスを開催した

名称	内容	時期	時間	会場	回数	参加者
留学生オリエンテーション	施設紹介・利用全般	4、10 月	10 分	六甲ホール	2	3 4 4 名
情報の探し方ガイダンス (入門編)	図書・雑誌の検索方法、資料入手方法	4 月中旬	60 分	総合図書館	10	1 2 6 名
情報の探し方ガイダンス (初級編)	雑誌論文検索方法「国内編」「海外編」	5 月中旬	60 分	自然系図書館	10	5 6 名
情報の探し方ガイダンス (中級編)	各種データベース検索方法 (データベースごとに独立)	6 月上旬	60 分	自然系図書館	10	6 8 名
情報の探し方ガイダンス (中級編) *社会科学資料特集	社会科学に関係した資料の紹介及び電子ジャーナル、新聞記事	10 月下旬	60 分	社会系図書館	11	1 0 9 名
国際協力研究科 YLP コースガイダンス	経済学・政治学関係資料、電子ジャーナル、統計資料等	11 月下旬	120 分	国際協力研究科	1	2 4 名
電子ジャーナル利用講習会 (海事キャンパス)	電子ジャーナル、データベース	12 月中旬	90 分	基盤センター 深江分室	2	3 8 名
理・化学科 3 年生	図書館紹介、資料検索、データベース	4 月、6 月	240 分	基盤センター 自然系図書館	4	3 2 名
工・建設学科 1 年生	図書館紹介、資料検索	4 月下旬	70 分	基盤センター	1	9 5 名
工・応用化学科 1 年生	図書館紹介、資料検索	11 月初旬	80 分	自然系図書館	1	1 3 名

- ・ その他、新規導入の SciFinder Scholar 及び Source OECD についてベンダー講師を迎えて説明会を開催し、計約 50 名の参加者があった。
- ・ 従来入学式当日に各学部オリエンテーション会場で行っていた「図書館オリエンテーション」は「情報基礎」授業の開設に伴って廃止した。
- ・ 昨年度の反省にたって日時・会場設定等を見直し、一定の参加者増を得られた。例えば昨年「OPAC ガイダンス」(4 月下旬：自然科学系図書館)は約 40 名の参加にとどまっていたが、相当する内容の「入門編」(4 月中旬：総合図書館)は 120 名超の参加者となった。内容面では、社会科学系図書館増築を機に、関係分野に特化したガイダンスを開催した。

< 図書館ホームページの維持 >

- ・ 月平均アクセスは約 48,000 件となっている(月別アクセス数は別添統計の通り)。
- ・ 図書館組織変更、社会科学系図書館増築に伴うページ変更があったが、全体として構成に大きな変化はなかった。
- ・ ガイダンスに際して作成した資料をホームページに順次アップしている。その他、各種情報のメンテナンス、新着事項の掲載等を行っている。



評価と課題

必修科目「情報基礎」を担当し、全新生にまとまった時間のガイダンスを行えたことは大きな前進である。従来全員への説明は学部オリエンテーション時の 15 分程度のみで、より実質的説明を行うガイダンスへの参加者も限られていたことを考えると、50 分というまとまった説明を全員に行き渡らせることができたことは大きく、総合図書館の利用増加要因の一つにもなっていると考えられる。

「情報の探し方」等のガイダンスについても時期・会場等を見直し、十分な水準とはいえないまでも一定の参加者増があった。ただし、全学生数から見れば依然多いとはいえない数であり、広報活動等さらに検討する必要がある。

図書館ホームページには特筆すべき大きな変更はなかった。利用案内の記述内容、各種ニュースの告知効果、各館室情報の精粗、英語版ページの充実など、依然として見直し課題がある。

(5) 設備・機器の整備

社会科学系図書館増築、自然科学系図書館改装といった施設面の整備については 4(4)で記述することとし、本節では学習環境改善のための設備・機器整備にしばって記述する。

< 設備更新による学習環境の整備 >

- ・ 社会科学系図書館増築にあたっては、フロンティア館（増築部分）だけでなく、既存部分においても、大閲覧室（160席）の椅子やメインカウンターなどの家具類を更新した。
- ・ 12月から年度末にかけて部局長裁量経費により各館室の整備を行ったが、特に学習支援に直接係わる事項として次のものがある。

総合・国際文化学図書館	端末・AVコーナーの家具更新、参考資料コーナーの書架増設
自然科学系図書館	3階閲覧室の雑誌配架スペースを圧縮し、閲覧机・椅子を増設
医学分館	閲覧机・座席の増設
保健科学図書室	開架書架の増設

< 自動貸出装置等 >

- ・ 海事科学分館に新たに自動貸出装置を導入した（年度末）。経済研究所図書館を除く各館に自動貸出装置が配備されたこととなる。なお、15年度末に導入した社会科学系図書館では、10月の増築オープン以降開架図書の手続きについて自動貸出装置をメインにすることとし、ラベル貼付等の作業を移転作業の一環として行った。
- ・ 4月より、海事科学分館にコイン式セルフコピー機を導入した。
- ・ 24時間開館を行っている医学分館について、監視カメラの整備を行った。
- ・ 老朽化している社会科学系図書館及び自然科学系図書館のBDS（無断持出防止装置）を更新した。利用者のセルフサービスを支援する機器類の導入状況は次の通りである。

自動貸出装置	研究所を除く各館
BDS（無断持出防止装置）	研究所を除く各館
24時間入退館システム	自然科学系図書館、医学分館
セルフコピー（コイン式等）	研究所を除く各館

< 情報機器の更新 >

- ・ 社会科学系図書館増築に伴い利用者用PC12台を増設した。また、各館室で計14台を更新した（新規6台、業務用から振替による更新8台）。
- 利用者用PC等の設置台数は次の通りである。

	総・国	社会	自然	人文	人間	医学	保健	海事	研究所	合計
PC台数	34	42	30	13	14	12	13	19	3	180
制限なし	(25)	(15)	(20)	(10)	(10)	(8)	(7)	(5)	(0)	(100)
一部サイト	(7)	(18)	(2)	(3)	(2)	(2)	(3)	(0)	(3)	(40)
OPAC専用	(1)	(3)	(6)	(0)	(2)	(2)	(1)	(3)	(0)	(18)
スタンドアロン等	(1)	(6)	(2)	(0)	(0)	(0)	(2)	(3)	(0)	(14)
利用者貸出用	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(8)	(0)	(8)
情報コンセント	3	21	12	4	5	25	2	20	0	74

* 「制限なし」100台は電子図書館システムのリース品

* 「一部サイト」は、OPACに加えて限定された検索サイト（国会図書館等）がアクセス可能なもの

- ・ 総合・国際文化学図書館のAVコーナー機器を充実させた。

評価と課題

社会科学系図書館増築関係に加えて、年度後半にも部局長裁量経費を確保することができ、年度当初の想定に比べると、学習環境整備はかなり進んだといえる。今後は、ますます利用が増加している総合図書館開架図書室の整備が大きな課題である。

自動貸出装置、BDS、セルフコピーは、経済経営研究所図書館を除く図書館室への配備が完了した。BDSは古いものを更新できたが、自動貸出装置も最初のもは平成10年度であり、初期導入分の更新が今後の課題である。

利用者用PCは社会科学系図書館で増築を機に大幅増としたが、他の館室は概ね昨年通りである。電子図書館システムリース品以外のものはセキュリティ確保のため利用制限をつけていることも考えると、十分な台数が確保されているとはいえない。なお、リースを除く70台を5年で更新と考えるなら年約15台の更新が求められるが、ほぼ近い台数を更新できた。

2. 学術研究支援

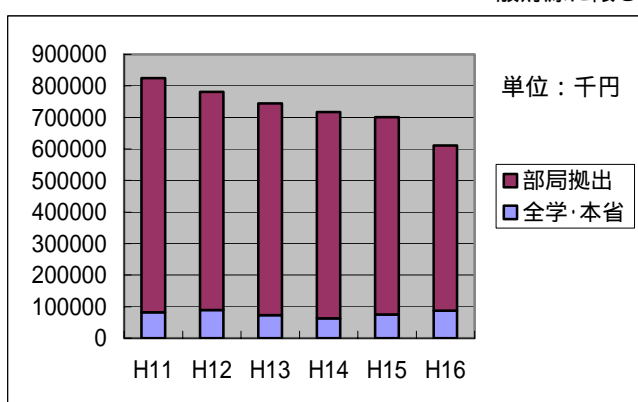
(1) 研究用資料の整備

各館室の蔵書数、受入図書冊数、資料費等は別添統計の通りである。

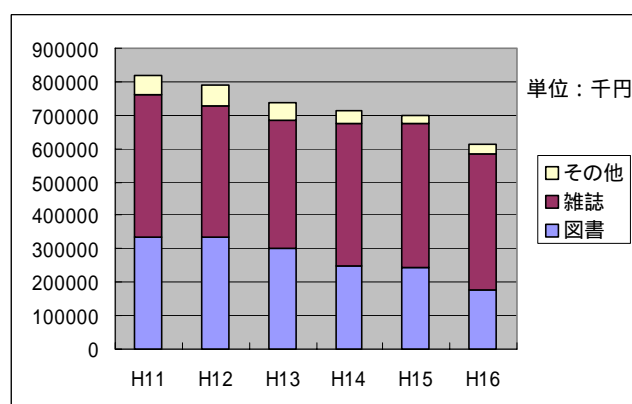
< 資料受入状況 >

- * 15年度まで館室によって学習用・研究用を分けがたい場合が多いため、総計の経年推移を示す。
注) 下記統計数値は、商船大、研究所など当時図書館組織外だった館の数値も合算した値

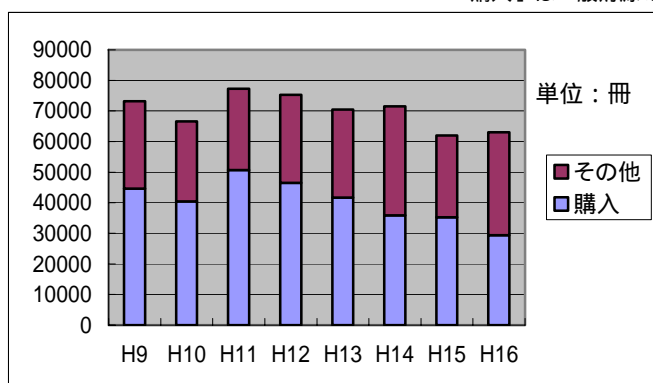
< 資料費経年推移 > * 一般財源に限る



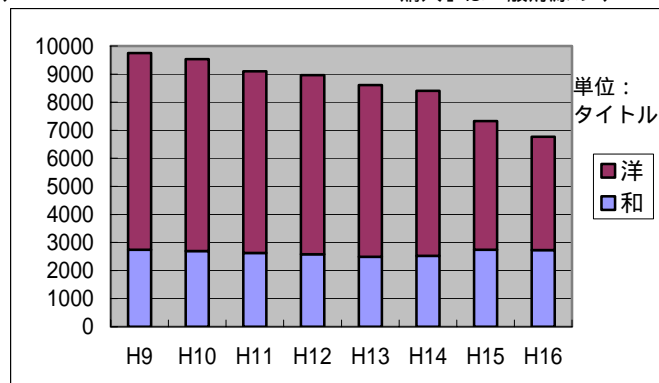
< 資料費の用途別内訳推移 >



< 受入図書冊数経年推移 > * 「購入」は一般財源のみ



< 購入雑誌数経年推移 > * 「購入」は一般財源のみ



- ・ 部局予算の全体的な厳しさにより部局拠出の図書資料費（一般財源）は減少している。また用途別では、外国雑誌を中心とする雑誌経費の圧迫により、多くの館室で購入図書冊数が大幅に減少している。
- ・ 数年来の傾向として、一般財源（校費）が減少した分、科学研究費・委任経理金等外部資金による購入の比重が高まっている。

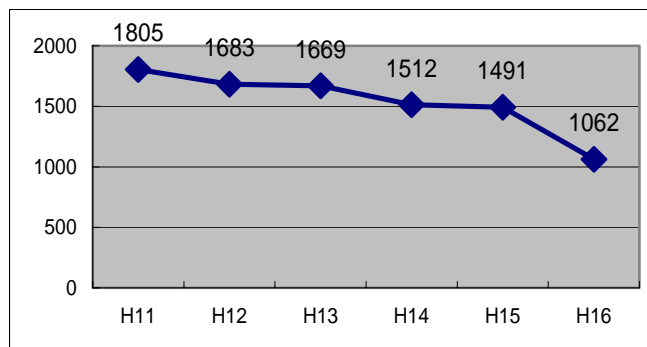
< 大型図書 >

- ・ 文部科学省予算「大型コレクション」「特別図書」がなくなった現在、教員・講座単位では購入困難な大型図書を購入する途は事実上閉ざされた状態にある。特に人文・社会科学系分野では大きな問題である。
- ・ 全学経費による大型図書の計画的収集を目指して、「高額基本図書整備事業」を 17 年度事業計画（予算要求）として提出した。

< 外国雑誌センター >

- ・ 昭和 61 年度より、「人文・社会科学系外国雑誌センター」の指定を受け、国内に所蔵の少ない外国雑誌を体系的に収集、全国共同利用に供している（配架は社会科学系図書館）。分野別の外国雑誌センターは全国で計 9 大学に設置され、人文・社会科学系は一橋大学と神戸大学の 2 大学に設置されている。
- ・ 外国雑誌センター本来の趣旨に鑑み、他に国内所蔵大学が出てきた（4 館以上）雑誌を中止することとし、16 年度は予約点数が減少した。
- ・ ILL 複写サービスについては、社会科学系図書館増築移転に伴うサービス停止期間（3 ヶ月間）を設定せざるをえなかったことに加え、関連業務等による担当係の繁忙も重なり、やや不安定なサービス状況であった。年度後半に改善検討を行い、17 年度は一部作業を外注化するなどして、年間を通じ安定したサービスができる体制を整えることとした。

< 予約点数の推移 >



評価と課題

予算の減少はとりわけ図書購入に大きな打撃となっている。また外部資金へのシフトは、減少分を補填する意義はあるが、科学研究費等の購入図書は当該教員（または教員集団）の利用が原則となることから、社会科学系図書館を典型とする、関連分野の専門図書館に資料を集中し共同利用するという伝統に大きな影響を与えつつある。

大型図書が購入できる体制をとることも、中長期的な研究基盤整備として、いつまでも放置はできない重要な課題である。

外国雑誌センターについては、本来の目的を鑑みた購入タイトルの整理、ILL 文献複写サービスの体制作りなど、今後に向けての見直しを行った。

(2) 電子的情報基盤の整備

<外国雑誌と電子ジャーナル>

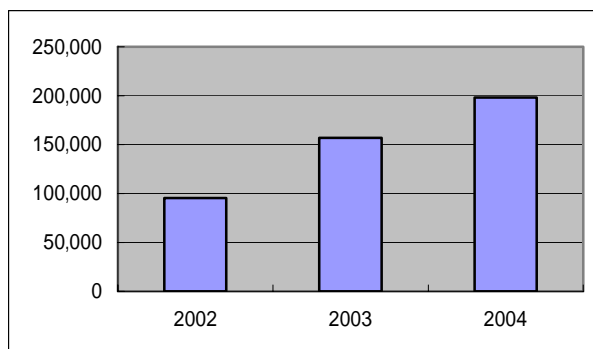
有料で導入している主な電子ジャーナルは次の通りである。

	分野	導入年	誌数	範囲	備考
Elsevier 社 ScienceDirect	全分野	H14	1,291	1995～ (クロスア クセス分は過 去4年分)	ライフサイエンス分野+コンソーシアム契 約によるクロスアクセス 冊子講読規模維持が条件(現講読 533)
Springer 社 SpringerLINK	多分野	H14	421	1995 前後～	発行全タイトル 冊子講読規模維持が条件(現講読 90)
Wiley 社 InterScience	多分野	H14	401	1996 前後～	発行全タイトル 冊子講読規模維持が条件(現講読 115)
Blackwell 社 HSS Collection	人文社会 科学	H14	595	1998 前後～	人文社会科学分野の発行全タイトル 冊子講読規模維持が条件(現講読 287)
JSTOR	自然科学 及び社会 科学	H14	180	創刊号～ (最近 3～5 年は対象外)	Arts & Sciences (H14～ 173 誌) General Science (H15～ 7 誌) Science 等が創刊号より利用可能
Nature 社	自然科学	H15	16	1987～	Nature 本誌以外は 1997～
AAAS Science Online	自然科学	H15	1	過去 5 年	
IEEE CSLSP-e	情報通信	H15	22	1988～	会議録約 1500 冊も利用可能
ACM Portal	情報通信	H15	31	ほぼ創刊号 ～	会議録等も利用可能
APS	物理系	H16*	8	2001～	米国物理学会。 *H16 よりライセンス料要 (以前から利用可能)
Cell Press	生命科学	H16 新規	7	1996～	Elsevier 傘下に (ScienceDirect)
LWW via Ovid	医学臨床	H16 新規	100	1996～	
ACS	化学系	H16 新規	35	過去 4 年	米国化学会

- ・ 16 年度より、上表下段 4 団体の電子ジャーナルを新規導入した。
- ・ その他、冊子体講読により利用できるものや SourceOECD (15 誌)、HighWire Press (冊子講読誌など 150 誌以上)、J-STAGE (約 200 誌)、NACSIS-ELS (機関別定額制対象の約 420 誌) 等も加え、16 年度当初の電子ジャーナル導入数は 5,179 タイトルとなった。
- ・ 電子ジャーナルの利用状況は別添統計の通りである。IEEE、ACM など一部に利用実績の伸びないものもあるが、総体としては非常によく利用されており、今や必須の研究基盤となっている。また、いわゆる「ビッグディール」契約 (冊子講読規模維持と引き換えに非講読誌を含めて包括アクセス権を得る) には国際的にも疑問の声があるが、例えば Elsevier 社 ScienceDirect では利用件数の約 40% が非講読誌へのアクセスとなっており、軽々に切り捨てられる状況にはない。

< Elsevier ScienceDirect
全文利用件数の推移 >

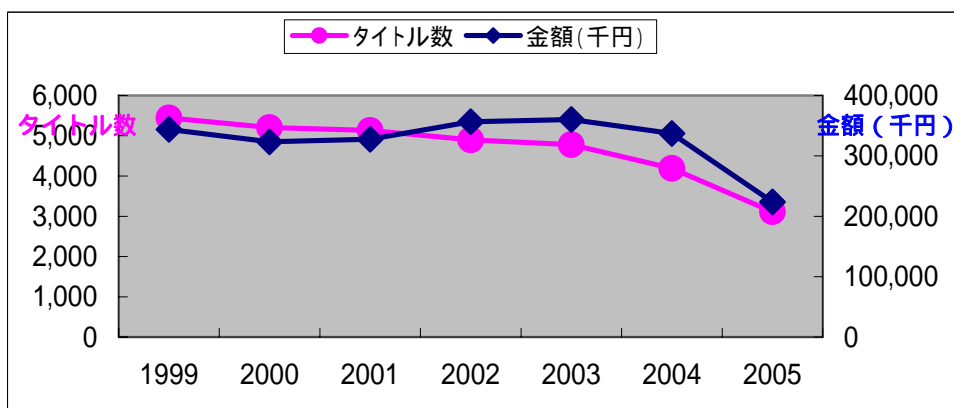
* 各年 1～12 月
* 海事科学部を除いた値
(旧商船大時代の数値不明のため)



- 外国雑誌（冊子体）購入点数は年々減少傾向にあったが、大手出版社のコンソーシアムに継続参加できる冊子体講読水準は維持してきたため、学内で閲覧できる電子ジャーナルタイトル数は順調に増加していた。しかし、冊子購入経費を雑誌ごとに各部局・講座・個人の研究費に依存する現行方式は年々厳しくなる予算状況と雑誌価格の上昇継続から、限界点に達していた。法人化後は予算状況がさらに厳しさを増していることから、2005 年の講読雑誌見直しにおいては、コンソーシアム契約に係わる冊子体講読維持依頼を行わないこととした。
- その結果、各部局で大幅な講読中止が発生し、講読タイトル数が激減することとなった。特に、理工学系の中止が著しかった。

2004 年契約点数	4,192 点	2005 年	3,112 点	(26%減)
2004 年契約金額	約 337 百万円	2005 年	約 227 百万円	(34%減)

< 外国雑誌購
読推移 >



- 9 月以降全学会議で議論がなされたが、電子ジャーナルは今や必須の研究インフラとなっているという認識が共有され、全学共通経費からの拠出を行ってでも電子ジャーナルコンソーシアム契約を維持するべきとの方向性が合意された。平成 17 年度予算配分において、大手 4 社 (Elsevier, Springer, Wiley, Blackwell) 電子ジャーナルコンソーシアム継続加盟のための外国雑誌購入費補填が全学経費として措置された。

< データベースの整備 >

主な導入データベースは次の通りである。

	分野等	導入	範囲	形態	備考
Web of Science SCIE	自然科学 (引用索引)	H15	1996～	Web	H15.11 から導入
MathSciNet	数学	H13	1940～	Web	
SciFinder Scholar	化学	H16	1907～	Web	H16.11 から新規導入
Readers Guide to Periodical Literature	一般雑誌	H6	1983～	ERL	図書館 ERL サーバで提供 (利用申請要)
Business Periodicals Index	経営学	H3	1982～	ERL	同上
EconLit	経済学	H3	1969～	ERL	同上
Index to Legal Periodicals	法学	H3	1981～	ERL	同上
NACISIS-IR	多分野	H15	多種	Web	機関別定額制
聞蔵 (朝日新聞)	新聞記事	H12	1984～	Web	同時アクセス 1
Global Books in Print	出版情報	H8	カレント	NT	図書館 NT サーバで提供 (利用申請要)
SwetScan	全分野 (雑誌記事)	H15	1995～	Web	学内サーバからの Web 検索提供
医学中央雑誌	医学	H5	1983～	Web	Web 版は H14 から 医学・保健にサービス

- ・ 15 年度途中に導入した引用索引データベース Web of Science SCIE (自然科学系) は、引き続き間接経費で契約を維持した。
- ・ 11 月より、化学分野の基本データベースである SciFinder Scholar を導入した。導入にあたっては関係部局の研究者にアンケート調査を行ったうえ、受益者負担を求めることとした。経費の問題から、「同時アクセス数 1」の契約となっている。
- ・ 各データベースの利用は別添統計の通りである。データベースにより、利用度合は大きく異なっている。

評価と課題

電子ジャーナルは研究者 (大学院生を含む) にとって不可欠な研究基盤となっている。17 年度は何とか大手出版社電子ジャーナルのコンソーシアム契約を維持できることとなったが、契約条件 (冊子体購読規模の維持) が基本的に変わらない中で、従来スキーム (冊子体購読者負担) を維持できないのは明らかとなった。2006 年の見直しに向けて、研究基盤資料整備に投資する経費水準や負担のあり方、コアジャーナルの欠落を防止する選定体制の検討が急務となっている。

データベースについては、Web of Science の人文・社会科学系への拡大、SciFinder Scholar の 2005 年以降の経費負担方式等が課題である。その他、本学におけるデータベース導入は決して豊富とはいえ、さらなる拡充が求められる。

(3) 蔵書目録データベースの整備

< 目録遡及入力事業 >

- ・ 平成 4 年度から「図書館インテリジェント化推進事業」として学内予算措置で事業を開始したもので、第 1 次 (平成 4～8)、第 2 次 (平成 9～13) を経て、第 3 次 5 力年計画 (平成 14～) の途

上にある。

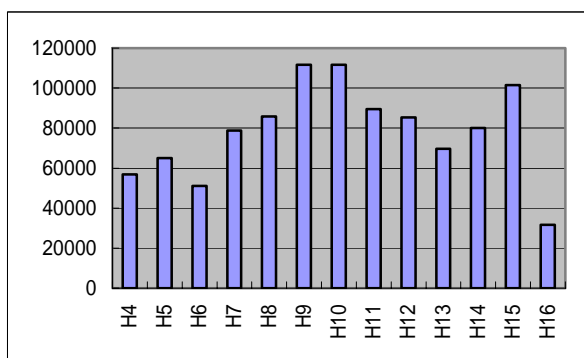
- ・ 15年度に引き続き、国立情報学研究所共同遡及入力事業（全国的見地から有意義な入力事業を公募し、国立情報学研究所経費で実施するもの）に参加し、経済経営研究所図書館の中南米文庫を入力。
- ・ 図書館の当初予算が厳しかったため年度当初からの安定実施はできなかったが、30,000冊入力（国立情報学研究所共同分を含む）を目指して、主として年度後半に外注及び職員による入力作業を行った。例年より規模は小さくなったが、目標を上回る入力が達成できた。16年度実績を加えると、平成4年度からの遡及入力総計は100万冊を超えたことになる。

16年度計画目標	30,000冊	実績	31,701冊
総合図書館（外部委託）	8,000冊（和書）	実績	8,502冊
人文科学図書館（外部委託）	4,000冊（洋書）	実績	5,802冊
経済経営研究所（中南米文庫 国立情報学研究所経費）	8,000冊（和洋）	実績	8,000冊
各館館員入力	10,000冊（和洋）	実績	9,397冊

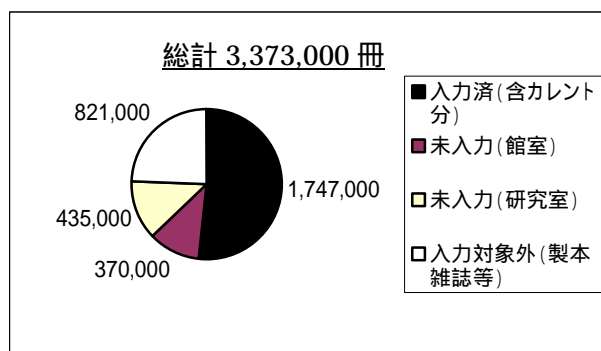
（参考： 15年度は101,543冊を入力）

- ・ 館室配置図書に限ると、未入力冊数は約370,000冊である。総合・国際、社会科学系、研究所の3館が各10～11万冊の未入力を書庫内に残している。

年度別入力冊数



16年度未現在入力状況



各館室別の OPAC 収録状況は次の通りである。

総合・国際文化学	開架室図書及び書庫内洋書はほぼ完了。書庫内和書は継続入力中
社会科学系	洋書はほぼ入力完了。和書は1945年以降ほぼ完了、それ以前は継続入力中
自然科学系	ほぼ全図書を入力完了
人文科学	和書はほぼ入力完了。洋書は1980年以降ほぼ完了、それ以前は継続入力中
人間科学	ほぼ全図書を入力完了
医学分館	ほぼ全図書を入力完了
保健科学	ほぼ全図書を入力完了
海事科学分館	ほぼ全図書を入力完了
経済経営研究所	1989年以降の図書、及び中南米文庫等は完了。他は順次入力予定

< 目録検索システム (OPAC) >

- ・ 安定的に稼働している。OPAC の検索回数 (検索プログラム起動回数) は約 1,200,000 件 (学内約 80% 学外約 20%) となっており、1 日あたり約 3,300 回 (休日を含む) の検索が行われている。
- ・ 新着資料の入力も順調で、特に整理滞貨等の問題は発生していない。新着を含めた 16 年度の入力総件数は約 96,000 件 (累積件数約 2,250,00 件) であった。

評価と課題

目録遡及入力はいままでと比べて規模を縮小したが、当初予定数は達成できた。館室配架図書については第 3 次 5 カ年計画が順調に進めば終わりが見えるところであったが、もう少し延長したスパンで考えざるを得ない。特に、新たに図書館組織に入った経済経営研究所図書館は未入力の割合が高く、今後重点的に進める必要がある。

目録システムは順調に稼働しているが、多言語処理 (特に中国語) 等の課題があり、17 年度に予定しているシステム更新で解決が望まれる。

(4) 資料の保存

< 貴重資料等の保存と利用 >

- ・ 社会科学系図書館増築により、空調設備・ガス消火設備を備えた貴重書庫 (218 m²) が確保され、書庫棟の一角に別置していた稀覯書・文書類 (「住田文庫」約 6,500 点、洋稀覯書約 4,000 点、その他「村上文書」等) を良好な環境に移行した。
- ・ 文学部地域連携センターの協力を得て、同学部地域連携研究員による総合図書館・国際文化学図書館の「郷土資料」調査を行った。主に姫路高等学校から引き継いだ郷土関係資料約 500 件の簡略目録データが整理された。
- ・ 酸性紙等による劣化資料の利用に関して、デジタルカメラによる撮影を認める条件等について検討を行った。
- ・ マイクロ資料の劣化対策が急務であることから、特に集中している社会科学系図書館及び経済経営研究所の約 40,000 本について調湿剤投入と劣化状況調査を行い、劣化分の保全措置に一部着手した。また、社会科学系図書館増築に伴い、書庫内に分散していたマイクロ資料を「マイクロ資料室」に集め、一元的に管理することとした。
- ・ 上記劣化状況調査の結果、酸性臭がする要注意ルールが社会科学系で約 2%、研究所で約 5% ある。より専門的な精査を行う必要がある。

< その他の資料の保存 >

- ・ 17 年 2 月、附属図書館事務改善プロジェクトに「資料選定・収集・保存・廃棄に係る課題検討 WG」(主査：管理課補佐) を設置し、資料選定・収集にはじまるサイクルの中で保存方針 (分担保存等) を検討することとした。本格的には 17 年度に検討予定である。

評価と課題

貴重書庫の整備、マイクロ資料劣化調査等に取り組んだ。空調等完備の貴重書庫スペースは本学図書館でははじめてのものであり、社会科学系図書館所蔵資料だけでなく、全館的な資料調査と保

存方法検討が求められている。マイクロ資料については、補修・複製等を要するものが一定量あることが明らかとなり、なお対策が必要である。

雑誌製本については、安定した予算確保とともに、館ごとの分担や他大学紀要類の扱いなど、資料保存方針の明確化が課題である。

(5) その他の研究支援サービス

時間外開館など学習支援と重なる部分は 1(1)(3)に前述の通りである。

< 相互利用 >

- ・相互利用の現況は、別添基本統計の通り

< 15 年度との比較 >

		全館合計	社会科学系	社会系以外
他大学からの複写受付	H16	14,644	3,551	11,093
	H15	17,181	6,127	11,054
他大学への複写依頼	H16	12,460	832	11,628
	H15	15,748	2,431	13,317
他大学からの貸借受付	H16	2,096	976	1,120
	H15	2,322	1,478	844
他大学への貸借依頼	H16	1,889	627	1,262
	H15	1,805	591	1,214

- ・複写受付・依頼及び貸借受付が大きく減少しているが、増築移転で長期休館した社会科学系図書館で大幅減となった影響が大きく、それを除くと減少しているのは複写依頼件数のみである。
- ・社会科学系図書館は、古くからの充実した蔵書に対して、他大学からの依頼が非常に多い。増築によりサービススペースが広がったこともあって、現状の人員では全ての依頼には対応しがたい現状にある。外国雑誌センター（2(1)に前述）として拠点図書館の役割を安定的に果たすため、17年度から文献複写業務の一部外注化を実施することとした。
- ・2月に GIF (Global ILL Framework) に加盟し、海外図書館との相互利用チャンネルが、従来の BLDS (英国図書館) に加えて、北米の大学図書館に拡大した。
- ・国立情報学研究所の ILL 文献複写等料金相殺制度に加入し、ILL 料金の事後一括相殺が従来の国立大学から相当数の公私立大学等にも広がった。

評価と課題

大学図書館間の相互利用は平成 10 年ごろまでは年々増加の一途をたどっていたが、電子ジャーナルの普及等により近年は横ばい（もしくは微減）の傾向にある。しかしそれでも、文献複写は依頼・受付とも 1 万件を大きく超える数であり、他大学との協力関係なしには利用要求に十分応えられない状態に変わりはない。16 年度は社会科学系図書館休館の影響が大きかったが、来年度は旧に復した数になると思われるため、安定的なサービスのために業務の一部外注化をはかることとした。

海外図書館との相互利用については、学内研究者への制度の周知、利用状況の評価等が課題である。

3. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス

< 一般市民の図書館利用 >

- ・ 情報公開法適用除外申請の関係もあり、法人化に合わせて附属図書館規則・利用規程を改正し、学外者が誰でも図書館資料を利用（閲覧・複写）できることを明記した。
- ・ 10月より総合図書館の開架図書（約8.4万冊）を対象に、一般市民への資料貸出を試行実施した。3冊2週間の条件で、登録者27名・貸出124冊であった。
- ・ 年度末の運営委員会等で試行状況を評価を行った。その結果、17年度より総合図書館及び海事科学分館の2館に拡大して試行を継続することとした。

< 公共図書館との協力 >

- ・ 会長館を務める兵庫県大学図書館協議会で加盟館の市民公開状況をまとめ、協議会ホームページでの情報公開及び兵庫県図書館協会（会長館：兵庫県立図書館）への提供を行った。

評価と課題

一般市民への資料貸出試行ではそれほど多くの利用実績はなかったが、大きな問題も発生しなかった。地理的条件等の異なる海事科学分館を加えて、試行を継続することとした。一般市民への資料貸出を行う国立大学図書館は増加しており、利用規程・細則を整備して定常的サービスに移行することが17年度の課題である。

(2) 震災文庫

< 資料収集と一般公開 >

- ・ 引き続き、様々なチャンネルからの情報収集・寄贈依頼等、能動的収集により関連資料の網羅的収集に努めた。ただ、担当要員減等により収集は1,218点（15年度は2,411点）にとどまった。

	全点数 (タイトル数)	H16 新着		全点数 (タイトル数)	H16 新着
図書資料	5,525 (4,956)	200 (153)	写真資料	83 (81)	
雑誌資料	11,255 (2,894)	293 (27)	地図資料	132 (126)	
新聞・広報紙資料	11,748 (1,982)	419 (55)	映像資料	196 (167)	4 (2)
パンフレット資料	4,682 (4,643)	150 (149)	音声資料	71 (63)	3 (1)
一枚もの資料	5,392 (5,392)	146 (146)	コンピュータ資料	69 (69)	3 (3)
			総合計	39,157 (20,374)	1,218(536)

注) 雑誌等の各号を1冊ずつ数えた数が「点」(件)、同一タイトルは1と数えたのが「タイトル」。

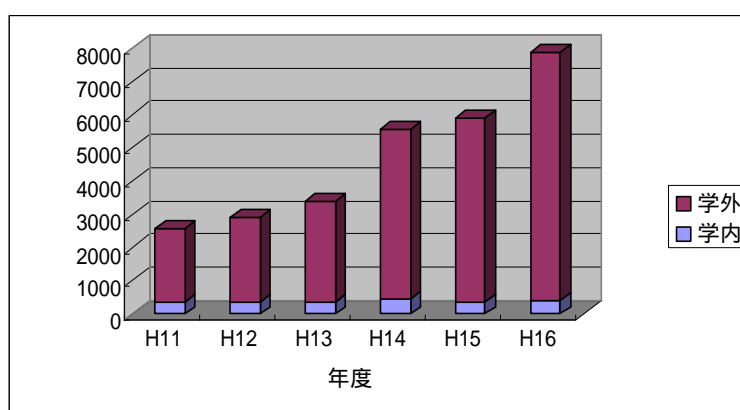
写真資料はコレクション単位(概ね撮影者単位)を1としているため、点数が少ない(約2万枚のコレクションなどもある。)

- ・ 社会科学系図書館増築に伴い、震災文庫スペースを雑誌閲覧室の一角から新館の独立スペース（168㎡）に移転した。資料収容力と閲覧環境の両面において大きく改善された。
- ・ 引き続き、所属・身分を問わず広く一般に資料を公開した（ただし、増築移転に伴い8-9月は利用停止）
- ・ スペース移転に合わせ、案内用のリーフレットを更新した。

<震災デジタルアーカイブ>

- ・ 資料全体のタイトル等だけでなく、掲載されている記事情報等からも検索できるよう、詳細なメタデータを作成している。本年度も約20,000件を入力し、メタデータデータベースのレコード総数は約210,000件に達している。
- ・ 平成13年度以降、図書資料の全文デジタル化に力を入れている。本年度は著作権許諾の得られたもの107冊（約15,000ページ）をデジタル化・公開した。デジタル公開済の冊子体資料（パンフレット・広報紙等を含む）は約50,000ページにのぼっている。
- ・ その他、チラシ等一枚もののデジタル化も引き続き行った（累積で約2,900枚）
- ・ 上記に加え、前年度までに作成した映像・写真・音声資料等も公開している。写真資料を中心に二次使用の問い合わせが増え、著作権者との仲立ちを行っている。
- ・ 11～15年度の間、科学研究費研究成果公開促進費（「阪神・淡路大震災マルチメディア・アーカイブズ」）の交付を受けてデジタル化経費に充ててきたが、16年度は図書館経費によることとなった。なお、大学の震災十周年事業経費からもデジタル化経費の補助を受けた。

<震災文庫トップページ 月平均アクセス数推移>



<震災十周年事業と展示会開催>

- ・ 全学的に行われた阪神・淡路大震災十周年事業の一環として、「震災文庫展示会：資料でたどる阪神・淡路大震災の記録と記憶」を「六甲祭」時期に合わせて開催した。
 日程：11月8日（月）～14日（日） 7日間
 会場：社会科学系図書館プレゼンテーションホール
 展示内容：資料115点（新聞号外、チラシ、ポスター、地図、写真ほか）
 電子展示（震災デジタルアーカイブ）
 記念講演会：11月12日（金）
 岩崎信彦教授（文学部）、渡邊隆弘（附属図書館）
- ・ 7日間で887名（うち学内者212名）の来場者があった。近隣住民を含む一般市民の来場が多く、来場者アンケートへの反応等も概ね好意的であった。記念講演会にも99名の参加があった。
- ・ その他十周年事業の一環として、次の行事に参加し、パネル展示等を行った。

メモリアル・学術シンポジウム（11月） パネル展示

国連防災会議・総合防災展（1月） パネル展示、電子展示

- ・ 展示会を中心にマスコミの関心も高く、多くの報道があった。

媒体	日付	内容
NHK	11/9～10のニュース(テレビ、ラジオ)	展示会に関するニュース
毎日新聞	11/9 朝刊神戸面	「あれから10年「震災文庫」公開 新聞記事や航空写真、ボランティア資料も」
朝日新聞	11/11 朝刊神戸面	「震災10年モノ語り展」
神戸新聞	11/13 朝刊ひょうご面	「震災10年事業 当日の号外など115点 神大が資料展示会」
読売新聞	11/13 朝刊神戸面	「震災10年資料で検証を 新聞号外・ボランティア記録など100点 パソコン動画も 神戸大で特別展」
京都新聞	11/13 丹波ワイド面	「大震災の記録と記憶」(展示会案内)
サンテレビ	11/13のニュース	展示会に関するニュース
京都新聞	11/19 丹波ワイド面	「震災資料3万8500点収集 神戸大付属図書館の文庫 口丹波関連も所蔵」
神戸新聞	11/24 朝刊文化面	「『記憶』を支える記録 神戸大で被災後の資料群展示と講演会」
読売新聞	1/13 震災特設面	「未来に伝える「あの日」 神戸大に3万8500点」
NHK	1/6 「上方倶楽部」	「ブックレビュー」コーナーで簡単に紹介
神戸新聞	1/31 社説	「記録と記憶 多様で開かれた伝え方を」

評価と課題

震災十周年で注目度は高く、展示会・講演会は図書館側の予想を上回る参加者があった。また、マスコミ報道も相当量にのぼり、デジタルアーカイブのアクセス数も伸びている。

資料発生も十周年で増加していると思われるが、収集等に当たる要員が減少した影響等により、収集数は伸び悩んだ。継続的な整備には、資料購入費に加えて、能動的収集を行うための人手と多様な資料の保存に要する消耗品費が必須であり、安定的な予算確保が課題である。

震災デジタルアーカイブは特色ある電子図書館事業として評価を得ており、主に学外から多くの利用がある。継続的な作業がなお望まれている。

(3) 電子図書館システムによる情報発信

コンテンツのうち震災関係資料については、前節に述べた。

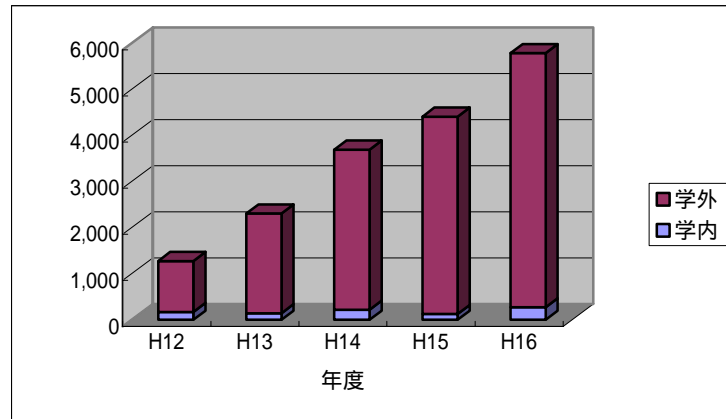
<「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築>

- ・ 同システムは平成10年度補正予算で予算措置され、11年から稼働してきた。全国5大学に「先導的電子図書館システム」として継続予算措置されたものである。
- ・ 「震災関係資料」「経済関係資料」「学内教育・研究成果」を3本柱に事業推進し、デジタル化した資料は、制限をつけず広くWWWで公開してきた。経費には上記の電子図書館経費と、科学研究費研究成果公開促進費(H11～15 震災デジタルアーカイブに措置)を充ててきた。
- ・ システムは15年2月に更新(20年1月まで)しており、目立った障害はなく安定稼働している。

< 経済関係資料デジタル化 >

- ・ 新聞記事文庫（戦前期記事切抜）デジタル化について新たに科学研究費研究成果公開促進費（「戦前期新聞経済記事文庫データベース」）を獲得した（補助額 1,390 万円）。「農業」「労働」分野を中心に約 25,000 コマを全文テキスト化した（累積約 163,000 コマ）。

< 新聞記事文庫 トップページ 月平均アクセス数推移 >



- ・ 住田文庫（海事・海運関係史料）のうち特に重要な地図等 5 点について、新たなインターフェース「ZOOMA」（超高速・超高精細インターネットビューワー）を採用し、インターネットを介して細部まで精細に閲覧できるように改良した。
- ・ 渋谷文庫（旧海軍技術資料 協力：海事・渋谷文庫調査委員会）のデジタル化検討に着手し、基本データと若干の画像情報を公開した。

< 学内教育・研究成果資料デジタル化 >

- ・ 王敬祥文書（中国近代資料 協力：国文・旧安井研究室 14 年度～）について、本年度翻刻（活字化）・日本語訳・解説を引き続き作成し、一応の完了を見た。
- ・ 広峯文書（鎌倉期文書 協力：文・日本史研究室 15 年度～）について、修復した文書（19 点）をデジタル化し、WWW 上で公開した。
- ・ 解剖学教科書（協力：医・寺島研究室 12 年度～）について、「神経発生学講義ノート」を新たに公開した。
- ・ 引き続き学内研究成果メタデータ（書誌情報）として、紀要類記事情報（1,300 件入力、累積約 26,000 件） 科学研究費成果報告書情報（130 件入力、累積約 1,500 件） 博士学位論文情報（350 件入力、累積約 3,500 件）の入力を進めた。

評価と課題

震災デジタルアーカイブ（前節を参照）を含め、蓄積してきたコンテンツは広く利用されている。

新聞記事文庫は、その規模と希少性（戦前の記事切抜は他にほとんど残っていない）から高い評価を得ており、主に学外から多くの利用がある。科学研究費研究成果公開促進費の獲得により計画通りに進めることができた。

学内教育・研究成果については特徴ある成果のデジタル化に取り組んできているが、他大学で進む「機関リポジトリ」構築の動き等も視野に入れ、大学の研究成果公開活動全体の中でどのように位置づけていくかを見直していく必要がある。

4. 管理運営等

(1) 図書館組織と運営

< 法人化に伴う図書館組織再編の経緯 >

国立大学法人化を機として、附属図書館はその組織再編を実施した。

組織再編に向けた具体的な検討は、法人化を目前とした平成 15 年度後半に集中して進められたが、それに先立って、学内的にも多くの検討がなされている。以下に、平成 4 年度の「附属図書館改革」以降の図書館組織に関する学内の検討経緯を掲げる。

年度	検討経過
平成 4	<p>「附属図書館改革」(全学評議会承認) 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学の図書館組織を附属図書館に一元化 (経済経営研究所図書室、医療短期大学部図書室を除く 6 館室体制) ・ 館長 - 副館長 (人社系・自然系・人文系・国際教養系・人間系) 分館長 (医学部) 体制 ・ 図書館事務組織の一元化 (経済経営研究所図書室、医療短期大学部図書室を除く)
平成 9	<p>「医学部分館名谷分室」設置 7 館室体制へ</p>
平成 10	<p>「附属図書館新営計画の見直しについて」(図書館審議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 六甲地区各館室を統合する「総合図書館」新営計画の断念 ・ 今後は、学問分野と地理的条件を考慮したゾーン開発方式
平成 12	<p>「附属図書館将来構想」(図書館審議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分散館室の連絡調整機能、共同利用による一体的機能と効率の運用 ・ 学問分野と地理的条件を考慮したキャンパス構想に基づいた館室配置 ・ 学習環境の整備のため、共通教育等に対応する図書館を新営 ・ 情報サービスと電子情報への対応
平成 14	<p>「将来構想専門委員会附属図書館検討小委員会報告」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学内における附属図書館の位置づけを再確認する必要 ・ 分散配置体制の維持と各館室の名称 (「 図書館 」 で統一することも) ・ 附属図書館と電子図書館の一体化 ・ 運営委員会の強化 ・ 附属図書館長、副館長の位置づけ
平成 15	<p>「統合に伴う図書館関係規則の改正について」(6 月運営委員会協議)</p> <p>「図書館の今後のあり方についての幾つかの問題」(9 月部局長会議 報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海事科学系分館を含め、8 館室を統合した運営をはかる方策 <p>「海事科学分館」設置 (10 月神戸商船大学統合) 8 館室体制へ</p> <p>「法人化後の図書館組織について」(11 月運営委員会協議)</p> <p>「法人化後の図書館組織及び諸規則の改正について」(12 月運営委員会協議)</p> <p>「法人化後の図書館組織について」(1 月全学将来計画委員会協議)</p>

< 図書館組織再編の要点 >

総合図書館の設置

- ・ 「国際・教養系図書室」の全学共通教育対応機能を分離し、「全学的な教育学習の場としての機能を備える」(附属図書館規則第3条2項)と規定して総合図書館を設置した。
当面は、国際文化学図書館と同一施設をもってサービスするが、最終的には全学図書館調整機能、生涯学習対応機能等も備えた総合図書館新営を目指すものである。
- ・ 運営委員会の審議事項に「総合図書館の管理運営に関する重要事項」(運営委員会規程第2条)を明示し、総合図書館は附属図書館長直轄の全学的な位置づけの図書館であることを明確化した。
- ・ 総合図書館の事務体制強化として、情報サービス課長、情報リテラシー係を総合図書館常置(従来はいずれも自然科学系図書館)とし、学習支援機能、地域貢献機能の充実を図ることとした。

専門図書館、分館、図書室

- ・ 前回(H4)図書館組織一元化時に参加しなかった経済経営研究所図書室を図書館組織に組み入れた(経済経営研究所図書館)。
- ・ 六甲台地区の6図書館(社会科学系、自然科学系、人文科学、国際文化学、人間科学、経済経営研究所)を「専門図書館」と位置づけた。
- ・ キャンパスの異なる医学、海事科学は「分館」と位置づけた。
- ・ 医学分館のもとに保健科学図書室(旧・名谷分室)を位置づけた。
- ・ 各館室の図書委員会組織(副・分館長又は運営委員が図書委員長)を明確化した。

運営体制の強化

- ・ 従来、館室代表という色彩の濃かった副館長を館長補佐として位置づけ、人数3名以内として運営をスリム化し、図書館長のリーダーシップが発揮できる体制とした。なお、副館長は、人文科学系・社会科学系・自然科学系から各1名が選出された。
- ・ 佐々木前館長が理事兼務であったこともあり、副館長が一部の全学委員会(国際交流委員会、広報委員会、評価委員会等)に分担して出席する態勢をとった。随時、館長・副館長・分館長懇談会を開催し、重要事項に係わる意思疎通を図った。
- ・ 附属図書館運営委員会は、委員資格を教授に限定する、経済経営研究所・学術情報基盤センターからも委員を選出する、などの体制強化を図った。
- ・ 図書館組織外にあった電子図書館システム委員会(委員長:副学長)を廃止し、電子図書館関係事項を運営委員会審議事項とした。また、研究開発室も改組した。
- ・ 附属図書館評価委員会を設置し、年次計画の策定とそれに基づく活動評価を実施する体制を整えた。

評価と課題

組織機構の再編等に関する評価は、本来、中・長期にわたる実績評価を要するが、敢えて、組織再編1年を経過した時点での評価と課題を記す。

- ・ 機動性が向上し、電子ジャーナルコンソーシアムの参加問題を全学部局長会議に提示するなど、全学・学内にタイムリーに課題を投げかけることができた。
- ・ 運営委員会において各館室の図書委員会活動報告を定例化するなど、運営面から分散館室の連絡調整機能が強化された。
- ・ 現館長の役員任期満了(H17.2)により、図書館長=理事という法人化発足時の体制が変更となった。これにより、大学役員執行部と館長との関係を再構築する必要性が生じている。

< 館内諸会議 >

附属図書館運営委員会

- ・平成16年度は5回開催した。法人化初年度ということもあり、各委員多用のため開催日程調整が難航した。開催日時、議事内容、委員名簿は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館長・副館長・分館長懇談会

- ・平成16年度は5回開催した。開催日時、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館評価委員会

- ・平成16年5月開催の第1回運営委員会において、設置を協議し、新設した。館長、副館長、分館長及び事務部課長を委員とし、委員長は館長が指名する副館長とした。
- ・評価委員会としての開催は2月の1回に留まったが、同じメンバーで構成する附属図書館長・副館長・分館長懇談会においても実質的な検討がなされ、年次計画の策定、年度計画達成度報告や年次報告の作成にあたった。なお、評価委員会では、「附属図書館年次報告」(本稿)を毎年継続して作成し、広く公開する体制を採ることとした。開催日時、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館研究開発室会議

- ・平成16年5月開催の第1回運営委員会において、研究開発室設置要項の改正を協議し、以下の体制変更を行った。
(研究開発室の組織)館長、副館長及び本学の教員若干名とし、副館長を加えた。
(電子化部会の設置)震災関係資料、経済関係資料及び学内研究成果の3電子化部会を置き、それぞれ副館長を部会長とした。
- ・平成16年度は、電子図書館システム事業に係る予算確定が遅れ、研究開発室会議の開催は10月の1回に留まった。開催日時、室員名簿、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

全学図書系係長会議

- ・平成16年度は4回開催した。附属図書館事務部課長、補佐、係長及び社会科学系学部等事務部研究所図書係長がメンバーで、全学図書館業務に係る実務的な会議である。開催日時、議題等一覧は、巻末添付資料に掲載。

評価と課題

全般的に図書館執行部と各委員会委員間、また事務部内においても活発な意見交換がなされ、組織再編等の効果が現れたものと思われる。

会議・委員会は、必要最低限の開催に留め、日常的な連絡は電子メールを多用する等により、運営のスリム化を進めることができた。

(2) 事務組織と人事管理

< 法人化時の事務組織の変更点 >

- ・法人化時の附属図書館事務組織の変更点を、以下に列記する。
 - 1) 大学事務部門全体の方針に基づき、図書館専門員(自然・医学・海事に配置)を課長補佐に振り替えた。
 - 2) 図書館組織再編に伴う館室名の変更に伴い、係名を変更した。
 - 3) 総合図書館設置に伴い、情報サービス課長及び情報リテラシー係(いずれも従来は自然科学系図書館配置)を総合図書館配置とし、学習支援体制を強化した。
 - 4) 大学全体の定員削減計画に基づき、職員 1とした。

5) 非常勤職員の削減と配置数変更を実施し、人件費圧縮と配置適正化を図った。

- ・削減 年度当初に 40h 2 名を 30h 2 名に転換、年度途中で 40h 1 名を削減
- ・配置数 図書目録係 2 情報リテラシー係 + 1 保健科学情報サービス係 + 1
- ・人事管理面では、人事院規則から就業規則・労使協定への大きな変化の中で諸々の変更が生じたが、特に附属図書館に特有の事項はない。

< 図書館事務組織 >

- ・平成 16 年 5 月現在、附属図書館事務部は 2 課 19 係、定員 51 名、非常勤職員 40 名、別に、社会科学系学部等事務部に経済経営研究所図書係が置かれ、定員 4 名、非常勤職員 2 名の 97 名となっている。
- ・平成 16 年 5 月現在、職員の配置状況は、以下のとおりである。

地区	館室	配置係数等	定員職員	非常勤職員	計
六甲地区	総合・国際文化学図書館	サービス課長 2 係	5	4	9
	社会科学系図書館	部長 管理課長・補佐 7 係	20	19	39
	自然科学系図書館	サービス補佐 3 係	8	5	13
	人文科学図書館	1 係	3	2	5
	人間科学図書館	1 係	3	2	5
	経済経営研究所図書館	1 係	4	2	6
	楠地区	医学分館	管理補佐 2 係	6	3
名谷地区	保健科学図書室	1 係	1	2	3
深江地区	海事科学分館	管理補佐 2 係	5	3	8
			55	42	97

- ・現在、社会科学系図書館が事実上の中央館として機能しており、企画係・管理係が全館の総務機能を、図書受入係・雑誌情報係・図書目録係は、当該業務に係る全館調整機能と社会科学系及び総合・国際文化学図書館の整理業務を担当している。
- ・情報サービス課の情報リテラシー係（総合配置）、電子図書館係（社会系配置）、情報システム係（自然系配置）は、当該業務の全館調整機能を果たしている。
- ・情報管理係は、自然科学系・医学分館・海事科学分館に配置し、各館の総務機能と整理部門を担当し、各館室に配置する情報サービス係は、各館室のサービス業務を担当している。

< 職員の採用と育成 >

- ・平成 15/16 年度は図書系職員に定年等の退職者が多く、新規採用が 4 名、他大学からの転入 2 名と、職員が大幅に入れ替わった年であった。これを機会に数年間中断していた「図書系職員初任者等研修」を復活し、3 日間の日程で以下の講義・見学等を行った。

日程	4月26～28日（いずれも終日）
受講者	全行程参加 7 名（主に H16.1 以降の採用者、転入者） 一部参加 7 名（その他の職員のうち希望者）
講師	図書館部課長、補佐、担当係長（一部、係員を含む）
内容	大学図書館の基本問題 神戸大学及び附属図書館の概要 人事制度・会計制度の概要 図書館各業務の概要 コンピュータの使用とセキュリティ、情報検索（含実習） 図書館見学（保健科学図書室を除く各館室）

- ・ なお、平成 16/17 年度は、従前の国家公務員試験〈図書館学〉に代わる近畿地区国立大学法人等職員採用試験〈事務（図書系）〉合格者から、新人職員 2 名を採用した。
- ・ 職員のキャリア形成に係わる目標や希望をより正確に聴取するため、事務系職員の「身上調書」とは別に図書系職員の「意向調書」を実施し、研修計画等にも反映できるようにした。
- ・ 国立情報学研究所の主催する各種研修、大学図書館職員長期研修、主題専門知識の研修等に職員を派遣し、スキルアップに努めた。今年度参加の主な研修は次のとおりである。

区分	研修名	主催	日程	参加者
若手職員向けの基礎研修	大学図書館職員講習会	国立情報学研究所、京都大学	11/9～12	係員 1
	図書館等職員著作権実務講習会	文化庁	8/25～27	係員 2
	近畿地区著作権セミナー	文化庁	11/18～19	係員 1
中堅（係長クラス）向けの研修	大学図書館職員長期研修	筑波大学、文部科学省	7/5～16	係長 1
	国立大学図書館協会シンポジウム（西地区）	国立大学図書館協会	11/29～30	補佐 1
個別業務の専門的知識のための研修	目録システム地域講習会	国立情報学研究所、京都大学	7/5～7	非常勤 1
	総合目録データベース実務研修	国立情報学研究所	10/17～29	係員 1
	NAIST 電子図書館学講座	奈良先端科学技術大学院大学	11/1～2	係員 1
	学術ポータル担当者研修	国立情報学研究所	12/13～15	係員 1
	学術情報リテラシー教育担当者研修	国立情報学研究所	1/19～21	係員 1
主題専門研修	医学図書館基礎研修会	日本医学図書館協会	8/4～6	係員 1
	医学図書館研究会・継続教育コース	日本医学図書館協会	11/17～19	係員 1
	漢籍担当職員講習会（初級）	京都大学、文部科学省	10/4～8	係員 1
	日本古典籍講習会	国文学研究資料館	1/25～27	係長 1
	アジア情報研修	国立国会図書館	1/28～29	係長 1 係員 1
	科学技術資料研修	国立国会図書館	3/3～4	係員 1
	職員自己啓発研修（放送大学科目等履修生として「ロシア語」等を自学）	神戸大学	-----	係員 2
1 日以内の講演会・研修会等	各種講演会等 「大学図書館の経営と評価」 「学術情報資源の整備」 「大学図書館のメディアサービス」 「災害と図書館」 ほか	兵庫県大学図書館協議会、 近畿地区国公立大学図書館協議会、京都大学、ほか （主に近畿地区で開催されるもの）	各半日～1日	管理職を含め 延べ 34

- ・ いわゆる他大学等への研修出張は、調査結果が現状の業務改善等に直結するものに限定した。平成 16 年度他大学への調査出張は以下の 1 件である。

調査目的	調査先	出張者
財務会計システム下における資料購入業務の現状調査 図書館業務システムの機種更新の最新動向調査	東北大学・東京大学	係長 4 係員 1

- ・ 図書館専門業務以外の大学職員としての一般的な学内研修（OA 研修、管理職研修等）も、可能な限り受講したが、図書系職員として重要な語学研修受講は以下のとおりである。

区分	研修名	主催	日程	参加者
語学研修	国際交流関係担当職員海外語学研修	神戸大学	11/6～12/12	係員 1
	事務系職員語学（英語・中級）研修	神戸大学	10/6～1/26	係員 1

評価と課題

最近の10年間で、図書館正規職員は65名から55名、非常勤職員等は49名から42名と15%以上の削減となっている。今後とも、全学規模の職員削減計画は継続されるものと思われる。また、附属図書館の経常経費に拠っている非常勤職員人件費も計画的な減額に迫られている。

法人化時には、フルタイムの非常勤職員に加えて30Hパート職員についても、いわゆる3年期限が導入された。アウトソーシングや学生アルバイトの活用を進めていく一方で、正規職員の役割・責任、正規職員が担うコアの業務を明らかにしていく必要がある。

このような状況下において、現職者のキャリアアップ・高度職能化がこれまで以上に重要課題となっている。

<業務の改善と効率化・合理化>

業務の標準化・合理化

- ・ 本学の附属図書館は、平成4年度に旧神戸大学の6図書館室が一元化され、その後も医療短期大学部図書室、神戸商船大学附属図書館、経済経営研究所図書室が編入された組織であり、業務の面においても各図書館室には独自の処理や手順が残っている。このため、業務の効率化・合理化を進めるには、まず業務の標準化が重要となっている。
- ・ 平成16年度は、利用者のアクセス改善と業務処理の標準化を目的に、社会科学系図書館の図書分類を国内の標準分類である日本十進分類法に変更した。これにより、研究所図書館の洋書(DDC採用)を除き、全館室の採用分類を一本化した。
- ・ 合理化の面では、利用者サービス部門の自動化推進のため、以下の整備を行った。
自動貸出装置 平成15年度末に導入した社会科学系図書館での本格運用開始
海事科学分館への機器導入
老朽化した自然科学系・社会科学系図書館の図書無断持出防止装置の更新
セルフサービス複写機の増設 社会科学系図書館増築部分

アウトソーシング

これまで清掃・警備等の一般的業務のほか、製本、一部館室の時間外開館業務、目録遡及入力、電子化コンテンツの作成を外部委託してきた。平成16年度は、新たに以下に記す業務について、実施・試行を開始している。

- ・ 2005年外国雑誌の業者選定に際して、納品時の仕様を「直送」から「チェックイン」方式に変更した。これにより、雑誌受付処理の自動化(納品分一括処理)実施の条件を整備するとともに、煩瑣な欠号請求業務をアウトソーシングした。
- ・ 整理部門業務の軽減方策として、業者による装備作業済・目録データ添付図書の購入を試行的に開始した。未だ学生用図書の一部の範囲であるが、ビニールコーティングの図書装備は清潔感があり、学生に好評である。また、業務軽減効果も大きい。
- ・ 他大学からの文献複写受付業務の停滞について、現状を分析し、平成17年度から複写作業の外部委託を外国雑誌センターである社会科学系図書館で実施する予定である。

業務改善の検討

- ・ 平成15年度は、事務部内に「業務改善合理化検討ワーキンググループ」(課長補佐・図書館専門員・掛長10名で構成)を設置し、実務的な課題の洗出しを実施した。平成16年度に実施・試行を開始した上述の事項は、同WGの報告内容に負うところが多い。
- ・ 平成16年度に入って、事務部内に「事務改善プロジェクト」を設置し、全学事務連絡会議に設置

された「事務組織機能効率化・高度化プロジェクト」及び「事務情報化推進プロジェクト」に対応し、図書館事務体制・業務改善を検討する体制をとった。

メンバー： 定例の部課長打合せ会メンバー（部課長・補佐・企画係長の8名）

案件に応じて実務メンバーを加えたWGを設置する。

- ・「事務改善プロジェクト」の活動としては、平成16年9月に全学「事務組織機能効率化・高度化プロジェクト」から、全学各課に求められた法人化後半年の業務自己評価レポート作成時に、各係長から係業務評価を聴取し、法人化後の業務変化のレビューを行ったこと及びWGの課題を整理検討することに留まった。
- ・平成17年度は、同プロジェクトを中心として附属図書館の中期計画に掲げている業務体制の検討を本格化することが重要課題である。

（3）予算及び財務会計業務

<法人化に伴う変更点>

法人化に伴う財務会計制度の変更に伴い、附属図書館は、これまで以上に独立した予算セグメントとした運用が開始された。大きな変更点は、以下の2点である。

管理運営経費の全学共通経費化

これまで、文部科学省配賦予算と部局分担金に拠っていた管理運営費を全学共通経費に一元化した。従前の部局分担金額は、学内当初予算配分の後、運営委員会に附属図書館予算（案）を提案し、部局教授会で協議のうえ再度運営委員会で決定していたが、全学共通経費化によって年度当初から事業費等の執行が可能となった。

部局図書資料費の扱い

これまで、附属図書館予算に振替えて執行していた部局拠出の図書資料費は、各部局セグメントの予算とし、附属図書館資料費と別セグメントとして管理することとした。

<平成16年度附属図書館予算・決算>

経常運営費

平成15年度途中の神戸商船大学の統合、法人化による予算制度の変革等があり単純な比較は困難であるが、神戸商船大学附属図書館及び海事科学分館の経費を含む平成15年度実績額221,432千円に対して、16年度206,370千円（6.8%減）の緊縮予算、205,461千円（7.2%減）の決算となった。

経常事業費

これまでの文部科学省配賦予算費目（図書館業務合理化経費、図書館機能高度化経費、学生用図書購入費、外国雑誌等購入費など）を中心に、図書館サービスの基本事業を管理運営費から独立した事項として予算を編成した。

平成15年度実績額217,524千円に対して、16年度予算207,910千円（4.4%減）の緊縮予算、208,550千円（4.1%減）の決算となった。緊縮予算の中で、学生用資料費を可能な限り確保し、主な節減費目は、遡及入力経費、電子図書館事業費とした。

平成16年度臨時的経費

社会科学系図書館の増築関連経費のほか、学長裁量経費（自動貸出装置及び図書無断持出防止装置）労働安全対策経費を確保した。

11月及び1月配分の部局長裁量経費は、そのほとんどを図書館施設・設備の整備に費やし、文献複

写料等の収入見合予算は、経常経費の赤字補填財源とした。

その他の経費

電子的情報基盤資料整備経費の不足を補填のため、間接経費及び SciFinder 利用者負担金、電子図書館事業に関連して新聞記事文庫コンテンツ作成のため科学研究費補助金を獲得した。また、社会科学系図書館の増築に関連して、田嶋記念財団より委任経理金を得た。

平成 16 年度附属図書館予算及び決算を巻末に添付する。

評価と課題

平成 16 年度予算は全学的に当初予算が非常に厳しく、附属図書館においても主要な事業費の確保は夏以降となった。このため、電子図書館コンテンツ作成、目録遡及入力の実業規模は、平成 15 年度より縮小せざるを得なかった。

厳しい予算状況下にも関わらず、社会科学系図書館増築に関連の移転費、建物新営に係る設備費、集密書架経費が確保できた。特に、集密書架はその設置規模から年次計画による整備も覚悟せざるを得ない金額であったが、大学当局の英断と関連部局の協力により一度に整備を完了した。次年度以降の負担（再度の移転費を含む）なしに社会科学系図書館増築・移転が完了したことは、その他の事業計画の進捗に非常に有利な条件である。

学内予算追加要求により学生用資料費の増額が認められ、附属図書館学生用資料費は、従前の倍の規模（41,000 千円）となった。しかしなお、増額の必要な費目である。

平成 16 年度は、労働安全衛生の観点からの施設補修、設備改修等の経費が高んだ。幸い、全学経費（施設部営繕予算）による執行、労働安全衛生対策経費の配分がなされ、経常経費の負担は少なくすることができた。しかしなお、平成 16 年度に改善できなかった点が残し、今後の整備が課題である。

11 月に配分された部局長裁量経費は、図書館中期計画の柱のひとつである各館室の学習環境整備にほぼ全額を投資した。これにより当初計画を上回る整備を進めることができた。しかし、年度後半の事業となり、重要度の高い「総合図書館閲覧室の整備」は大規模となるため着手することはできなかった。

図書館予算の課題として、管理的経費の節減 / 事業経費の安定的確保があげられる。管理的経費の節減については、＜業務合理化＞の項に記した事柄を着実に進めていく必要がある。

< 図書資産の管理 >

図書資産の承継

国立大学法人移行に伴う図書承継にあたっては、平成 14 年度以降作業を進めてきた図書原簿のデータ化、現物点検、不要資料の抽出及び不用決定処理を実施するとともに、これまで備品として管理していなかった「電子化コンテンツ」及び一部のマイクロ資料のリスト化を実施した。図書資産承継に関連する数値を以下にまとめた。

平成 15 年度 不用決定 89,960 冊（承継しない重複雑誌・複本等）

承継図書資産 19,020,101,361 円

（内訳）図書	3,310,734 冊	18,446,619,026 円
マイクロ資料	350 点	444,822,447 円
電子化資料	68 点	128,659,888 円

図書資産の点検

図書資産点検計画を策定し点検作業経費を要求したが、予算化が認められなかった。このため、バーコード貼付済の作業条件が整っている開架図書の点検を授業休業期間等に実施するに留まった。

(作業館室等) 総合・社会科学系・海事科学・人文科学の各館 約 180,000 冊
 なお、平成 15 年度に引き続き、不用資料の抽出作業を実施し、846 点を除却した。

図書管理規程

「国立大学法人神戸大学図書管理規程」を策定し、図書の収集及び管理について必要な事項を定め、図書資料の適正かつ効率的で良好な運用を図ることとした。具体的には、取得時の手続き、固定資産の計上基準、計上価額、図書資産管理データベースへの登録、図書運用担当者、点検、除却等の図書資産固有の事項についての規定を盛り込んでいる。

図書の購入・契約等に係る一般的な会計処理は、「神戸大学会計規則」、「神戸大学会計実施細則」及び「神戸大学契約事務取扱規程」に拠っている。

評価と課題

図書資産の点検作業に関しては、監査法人の期中監査において以下の指摘を受けている。

「附属図書館における図書は非常に多数あることから、棚卸に際し、中期計画期間内において循環棚卸を行うことを予定している。

現在蔵書する図書 330 万冊程に対し本年度の棚卸予定は 18 万冊であり、来年度以降はこれをはるかに超える数量について棚卸を行うこととなっている。さらに、教員に長期的に貸出されている図書についても、棚卸上の扱いが不明確である。

今後、図書の棚卸を計画的かつ網羅的に実施できるよう検討することが必要である。」

330 万冊もの図書を循環的に点検するには、バーコードラベルを貼付する等の初期投資が必須であり、是非予算化が望まれる。

附属図書館が収集・管理する図書のうち、部局セグメント予算に拠って主に教員が選定し、購入請求する図書の割合は、約 60%を占めている。教員に対しては、図書資料費の計画的執行に協力的に依頼しているが、平成 16 年度も年度後半に購入請求が集中する傾向が強かった。Web 画面によるオンライン請求の徹底をはじめ、引き続き、教員の理解と協力を求めていく必要がある。

(4) 施設整備・システム整備

< 図書館施設の現況 >

- 平成 16 年度の図書館施設整備状況について、全 9 館室の概況をまとめた。

各館室別データは、巻末基本統計参照のこと

	H15 年度末	H16 年度末	分析指標
施設総面積	22,407 m ²	25,839 m ²	学生あたり面積 1.25 m ² 1.44 m ²
図書収容力	2,327,833 冊	3,005,609 冊	蔵書数に対する収容可能率 69.0% 89.1 %
閲覧座席数	1,383 席	1,627 席	学生数に対する座席率 7.7% 9.1 %

【参考：Aクラスの国立大学（8学部以上の16大学）の平均値】

施設総面積 27,206 m² 学生あたり面積 1.66 m²
 書架収容力 2,668,234 冊 蔵書数に対して 90.5%の収容力
 閲覧座席数 1,781 席 学生数に対して 10.9%の座席率

- 平成 16 年度は、社会科学系図書館の増築（新営の社会科学系総合研究棟（「フロンティア館」と命名された。）の一部を図書館施設とした）の完成など、附属図書館の施設整備面で一定の前進があった。

< 社会科学系図書館増築 >

- ・フロンティア館 平成 15 年 1 月着工、16 年 8 月竣工
 図書館増築部分 3,640 m² (旧館・管理棟 7,291 m²) は、10 月オープン
- ・増築に伴う施設利用計画においては、既存部分を含めた全体レイアウトを見直し、スペース配置は次の通りとした。

	旧配置	新配置
新館地下 1,2F	-----	ハンドル式集密書庫 (雑誌バックナンバー等を配置)
新館 1F	-----	開架図書室 (開架図書を 1 箇所を集約)
新館 2F	-----	震災文庫室 (雑誌室の一角から独立) 貴重書庫及び集密書庫 (閉架資料用)
新館 3F	-----	プレゼンテーションホール
旧館書庫	図書・雑誌を収納	図書収納とし増加余地確保。仮設書架を撤去し、安全確保
旧館 2F	カウンター	カウンター
旧館 2F	大閲覧室	大閲覧室
旧館 1F	開架閲覧室 3 室	それぞれ、自習室、グループ学習室、情報端末室に用途変更
管理棟 2F	雑誌閲覧室	雑誌閲覧室 (和洋を集約)
管理棟 3F	閉架書庫	マイクロ資料室
管理棟 4~6F	事務室	事務室

- ・増築により、サービススペースは 1,310 m² から 2,201 m² へと増加し、閲覧座席数は 213 から 408 へとほぼ倍増した。また、旧館の 3 室に分散していた開架図書を新館メインフロアに集約し、旧開架図書室を転用して自習室・グループ学習室・情報端末室を整備した。雑誌閲覧室も震災文庫との同居を改め、和洋すべてを集約、絨毯等の改装を行った。
- ・7 月から 9 月にかけて移転作業 (旧館・管理棟の改装・設備更新等を含む) を行った。概ね順調に進捗し、10 月 1 日よりオープンした。
- ・フロンティア館 3F プレゼンテーションホール (226 m²) が図書館管理下となった。震災文庫展示会や館内会議に使用しているほか、使用要項を作成して学内外の利用に供している。

< 自然科学系図書館の改装 >

- ・11 月に追加配分となった部局長裁量経費により、自然科学系図書館の館内スペース再配置 (1 階・2 階の改装工事) を行った。
 - 1) 1 階ホールに 2 階サービスカウンターを移設 書庫へのアクセスを改善
 - 2) 2 階開架図書室の拡張
 - 3) 2 階端末コーナーの OA 床への改装
- ・この館内再配置は、平成 15 年度末に実施した 4 階事務室の半分を閲覧室に転用する改装に続くもので、あわせて、サービススペースは 965 m² から 1,166 m² へ、閲覧座席数は 181 席から 207 席へ、開架書架収容力は 68,000 冊から 88,000 冊へとそれぞれ増加した。

< その他の施設整備 >

- ・その他の館室についても、部局長裁量経費により以下の整備を進めた。

医学分館の閲覧席増設	14 席増設
人文科学図書館の集密書架増設	28,000 冊の資料収容力を増強
保健科学図書室の書架増設	3,900 冊の資料収容力を増強

海事科学分館の書架増設 7,200冊の資料収容力を増強
館内監視カメラシステムの導入 社会科学系、医学分館（増設）

- ・また、部局長裁量経費による整備事項を検討する中で、これまでの施設営繕要求事項の見直し、要追加事項の洗出し等を行い、平成17年度の予算要求として整理した。

<安全点検>

- ・労働安全衛生法に基づく衛生管理者を置き、毎週点検を実施した。
社会科学系・自然科学系の独立建物2館は、附属図書館衛生管理者が管轄した。その他の館室（関係部局校舎の一部を使用）は、関連部局の衛生管理者の管轄となったが、図書館特有の要点検項目（書架、非常口等）もあるため、各館室補佐・係長等による独自の点検も実施した。
- ・労働安全衛生の観点だけでなく、図書館利用者の安全確保という観点も加味して点検結果の評価を行い、予算の範囲内で改善措置を講じた。

平成16年度の労働安全衛生に関連する改善事項を記す。

総合・国際文化学図書館	非常口関係の改善（メ切にならないよう錠の取替等） 空調送風機ファンキャンパ取替、噴き出し口ボード補修
社会科学系図書館	書庫入口防火扉設置（古い防火シャッターを取替） 管理棟階段補修（Pタイル亀裂等） 各事務室配線改修（タコ足の解消） 書庫内照明スイッチ、電源スイッチ、改善（未固定、破損など） 大閲覧室フロアコンセント改修（破損など） 本館分電盤整備（開閉器取替） 閲覧室ガス配管工事（浮いた状態を解消） 玄関前石積補修
自然科学系図書館	空調機油漏れ修理等 各階トイレ等浮きタイル剥がし（剥落の危険） 事務室加湿器導入
人文科学図書館	非常誘導表示不足の解消 吹き抜け部分ランプ取替（高所で職員作業が危険）
人間科学図書館	非常誘導表示不足の解消
医学分館	非常出口表示及び誘導灯不足の解消 書架・テレビ等の固定
保健科学図書室	非常口関係の改善（メ切にならないよう錠の取替等） 遮光カーテン設置（空調効果の向上）
海事科学分館	床陥没箇所補修 書架等の固定

評価と課題

社会科学系図書館増築は予定通り進捗し、学習環境・資料収容力が大きく改善した。1(3)で述べたサービス改善も、増築によるスペース拡張がなければ困難だった事案である。また、部局長裁量経費による整備、労働安全衛生関係の改善を含め、平成16年度の施設整備は、当初想定以上に進めることができた。

しかしなお、Aクラス国立大学平均との比較において、学生あたり施設面積、学生あたり座席率が大きく下回っており、本学の図書館施設整備は遅れていると言わざるをえない状況にある。平成12年の図書館審議会答申「附属図書館将来構想」にあげられた「共通教育等に対応する図書館新営」が最大の課題であり、数年来概算要求事項としているが、残念ながら実現の目途が立たない状況にある。

このため、当面の緊急対策として現総合・国際文化学図書館の開架図書室の整備計画を策定し、平成17年度事業計画の重点事項として学内予算を要求している。

また、社会科学系図書館本館（昭和 8 年竣工）の大閲覧室及びホール部分の冷房設備新設、大閲覧室の照明器具の増設・更新も長年の課題であるが、実現できていない。

<システム整備>

- ・ 国立大学法人化に伴う財務会計システム導入への対応としては、従前どおり図書館業務システムで図書館資料の収集・受入処理を行い、必要データを財務会計システムに引き渡すこととした。このため、平成 15 年度、附属図書館業務システムに財務会計システムとの連結機能を追加した。
- ・ 財務会計システムと図書館業務システムとの連携は、支払段階でのバッチ処理（CSV データによる受け渡し）で実現した。初年度としては大きな問題もなく順調に業務が遂行されている。
- ・ 平成 16 年 10 月から全学に情報セキュリティポリシーが施行されたことに伴い、「附属図書館における図書館情報の管理に係る実施手順」を作成し、神戸大学情報セキュリティ委員会の承認を経て平成 17 年 1 月に制定された。今後は平成 17 年 4 月から施行される個人情報保護法への対応ともあわせ、所属職員への周知徹底が課題である。
- ・ 平成 18 年 1 月にリプレースが予定されている図書館業務システムは、利用者サービス（Web による発注・照会・各種申込等）の強化、そのための統一利用者パスワード（学術情報基盤センター認証システムの利用）、目録検索システムの強化（連携検索）、目録システムの多言語化、業務システム全体の Web アプリケーション化を大きな柱として仕様を策定中である。
- ・ 平成 18 年 1 月には学術情報基盤センターの電子計算機システムも更新となる。これに伴い、利用者サービス環境の増強として、各館数台～十数台の情報処理教育用端末を要求している。
- ・ 図書館電子メールサーバを平成 17 年 1 月に更新し、ウィルスチェックを学術情報基盤センターの電子メールサーバに委任した。これにより、電子サーバの負荷軽減、メールの受信・配送機能の向上を実現した。

評価と課題

業務システムでは、財務会計システムとの連動を含め大きな障害は発生せず、手堅く運営できた 1 年であった。

平成 17 年度は、図書館業務システム更新年度にあたり、機能向上とスムーズな移行が課題である。

(5) 図書館界での諸活動

<国立大学図書館協会>

- ・ 総会において、引き続き監事館に選出され、協会活動の監査業務を行うとともに、理事会に出席している。
- ・ 新たに設置された「人材委員会」（情報管理課長）、「経営問題委員会社会連携小委員会」（情報サービス課長）に委員を派遣している。

<兵庫県大学図書館協議会>

- ・ 引き続き、会長館として協議会の運営にあたった。
- ・ 平成 16 年度の活動成果としては、これまで疎遠であった兵庫県図書館協会との連携強化に向けた関係構築があげられる。

<その他>

- ・ 日本医学図書館協会近畿地区協議会シンポジウム（日本薬学図書館協議会、近畿病院図書室協議会と共催）の実行委員会委員を務めた（医学情報サービス係長）。
- ・ 国立情報学研究所の総合目録データベース「継続資料の取扱いに関する小委員会」（H16～17年度）に委員を派遣した（企画係長）。

評価と課題

大学図書館協議会等活動への参画は、大学図書館運営に関する共通課題の解決、情報交換、専門研修の受講機会確保等にメリットが大きい。

また、兵庫県図書館協会との連携強化を通じて、県立図書館をはじめとする地域の公共図書館との協力関係を構築していくことも重要である。

附属図書館蔵書・受入等の現況(平成16年度)

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計		
蔵書	蔵書数 (冊)	464,044	1,208,552	448,924	263,162	302,580	262,876	128,141	50,642	243,985	3,372,906		
	和洋区分	和漢書	323,751	551,827	235,822	162,253	232,583	111,431	47,000	43,703	186,985	1,895,355	
		洋書	140,293	656,725	213,102	100,909	69,997	151,445	81,141	6,939	57,000	1,477,551	
	目録状況	目録入力対象	421,000	882,000	290,000	233,000	229,000	204,000	52,000	45,000	196,000	2,552,000	
		入力済	259,000	662,000	165,000	165,000	178,000	49,000	31,000	44,000	194,000	1,747,000	
		未入力	162,000	220,000	125,000	68,000	51,000	155,000	21,000	1,000	2,000	805,000	
	所蔵雑誌数 (タイトル数)	2,252	7,764	4,835	3,796	2,259	3,791	2,081	574	4,798	32,150		
和洋区分	国内雑誌	1,393	2,063	2,275	2,695	1,544	1,876	696	428	3,367	16,337		
	外国雑誌	859	5,701	2,560	1,101	715	1,915	1,385	146	1,431	15,813		
図書受入	受入図書数 (冊)	6,471	5,982	26,275	8,198	3,521	3,304	1,822	2,812	1,828	2,805	63,018	
	和洋区分	和漢書	6,432	4,191	17,201	4,603	2,592	3,001	1,060	1,304	1,702	2,505	44,591
		洋書	39	1,791	9,074	3,595	929	303	762	1,508	126	300	18,427
	取得手段	購入(一般財源)	6,251	4,222	8,063	3,378	1,345	2,098	931	682	837	1,613	29,420
		補助金による購入	0	1,381	4,842	876	1,573	844	119	254	444	86	10,419
		一般寄贈	0	208	10,177	932	166	130	23	314	374	765	13,089
		製本編入	220	171	3,193	3,012	437	232	749	1,562	173	341	10,090
	取得目的	学生用図書	6,251	1,069	3,526	2,174	400	522	0	547	475	1,058	16,022
		図書館備付	75	86	14,658	3,180	518	0	997	1,950	563	1,426	23,453
		研究室備付	145	4,827	8,091	2,844	2,603	2,782	825	315	790	321	23,543
	除却・移譲等による減 (冊)	0	0	0	0	0	687	159	0	0	0	846	
	和洋区分	和漢書	0	0	0	0	0	275	159	0	0	434	
		洋書	0	0	0	0	0	412	0	0	0	412	
	年間増加数 (冊)	6,471	5,982	26,275	8,198	3,521	2,617	1,663	2,812	1,828	2,805	62,172	
	和洋区分	和漢書	6,432	4,191	17,201	4,603	2,592	2,726	901	1,304	1,702	2,505	44,157
		洋書	39	1,791	9,074	3,595	929	(109)	762	1,508	126	300	18,015
	雑誌受入	受入雑誌数 (タイトル数)	135	612	2,847	2,639	1,771	1,304	1,028	962	438	1,245	12,981
和洋区分		国内雑誌	94	466	943	1,800	1,457	1,164	528	494	332	1,012	8,290
		外国雑誌	41	146	1,904	839	314	140	500	468	106	233	4,691
取得手段		購入(一般財源)	135	228	2,455	1,565	387	629	424	403	170	285	6,681
		補助金による購入	0	0	26	0	16	0	0	0	0	58	100
		一般寄贈	0	384	366	1,074	1,368	675	584	559	268	902	6,180
		その他	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	20
取得目的		学生用雑誌	97	101	133	173	23	146	0	68	116	254	1,111
		図書館備付	0	412	2,291	2,068	1,731	675	996	767	268	830	10,038
研究室備付		38	99	423	398	17	483	32	127	54	161	1,832	
その他資料受入	受入新聞数 (タイトル数)	7	3	47	10	6	17	12	5	7	15	129	
	和洋区分	国内新聞	6	0	30	9	4	12	6	4	7	92	
		外国新聞	1	3	17	1	2	5	6	1	0	37	
	取得手段	購入	6	3	47	10	6	17	12	5	4	122	
		寄贈	1	0	0	0	0	0	0	0	3	7	
	データベース(年間契約点数)	6	0	3	1	0	0	0	3	0	2	15	
	電子ジャーナル(利用可能数)	5,179										5,179	
資料購入費(千円)	一般財源資料費	33,066,338	27,287,967	198,429,910	165,612,084	18,227,330	29,883,646	39,209,265	65,004,387	13,940,415	20,926,908	611,588,250	
	図書館セグメント	学生用図書	14,946,000	1,978,000	5,510,026	10,052,879	1,681,052	2,219,123	0	3,431,856	1,586,771	2,825,955	44,231,662
		その他資料費	12,152,338	0	31,101,100	0	0	0	0	0	0	0	43,253,438
	部局セグメント	館室備付	3,221,581	6,508,668	133,289,766	136,063,343	8,997,957	5,956,450	36,877,362	59,255,933	8,250,812	11,630,330	410,052,202
		研究室備付	2,746,419	18,801,299	28,529,018	19,495,862	7,548,321	21,708,073	2,331,903	2,316,598	4,102,832	6,470,623	114,050,948
	その他の財源 補助金等	18,272,873	8,021,046	42,338,856	10,000,576	10,054,023	4,452,101	650,770	8,313,033	714,083	1,175,393	103,992,754	
	COE等(外数)			10,905,116	89,554	2,220,576						13,215,246	
	図書購入費	17,129,911	29,867,111	107,295,252	30,979,240	19,407,375	14,907,288	8,984,567	10,894,768	4,893,952	7,183,309	251,542,773	
	和洋区分	和漢書	16,745,958	17,768,284	31,263,488	16,094,734	12,287,176	12,635,286	3,638,475	5,313,133	4,496,883	5,334,914	125,578,331
		洋書	383,953	12,098,827	76,031,764	14,884,506	7,120,199	2,272,002	5,346,092	5,581,635	397,069	1,848,395	125,964,442
	雑誌購入費	3,453,234	4,390,617	127,308,018	142,077,890	8,562,014	17,249,014	24,137,622	57,662,027	9,004,726	13,899,555	407,744,717	
	和洋区分	国内雑誌	1,146,137	1,043,011	21,485,951	10,721,225	1,256,107	4,751,621	4,413,738	3,638,258	1,774,832	3,401,192	53,632,072
		外国雑誌	2,307,097	3,347,606	105,822,067	131,356,665	7,305,907	12,497,393	19,723,884	54,023,769	7,229,894	10,498,363	354,112,645
	新聞購入費	287,796	51,504	2,068,479	457,126	287,496	132,900	521,848	240,696	158,220	489,097	4,695,162	
	電子資料費	30,425,211	0	1,519,562	333,642	0	0	0	2,690,248	350,000	526,000	35,844,663	
	その他の資料購入費	43,059	999,781	2,577,455	1,764,762	24,468	2,046,545	6,215,998	1,829,681	247,600	4,340	15,753,689	
	資料購入費計	51,339,211	35,309,013	240,768,766	175,612,660	28,281,353	34,335,747	39,860,035	73,317,420	14,654,498	22,102,301	715,581,004	
電子コンテンツ作成費	22,064,984										22,064,984		
製本費	671,853	5,784,219	5,482,281	772,653	401,373	1,342,488	2,867,235	313,530	626,661		18,262,293		

附属図書館サービス業務の現況(平成16年度)

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計	
施設	面積合計(㎡)	3,396	10,707	3,287	1,198	1,457	1,164	1,612	848	2,170	25,839	
	現行用途別(㎡)	サービススペース	1,693	2,201	1,560	478	493	170	838	653	719	8,805
		書庫スペース	1,196	5,801	449	372	716	885	431	38	1,051	10,939
		事務スペース	233	524	351	154	155	80	163	35	159	1,854
		その他	274	2,181	927	194	93	29	180	122	241	4,241
	閲覧座席数	閲覧座席数	449	408	207	71	137	14	152	70	119	1,627
		上のうち、教員用	10	0	0	0	0	8	0	0	20	38
	書架収容力	棚板延長(m)	10,282	51,264	10,684	8,213	6,525	6,823	5,616	1,537	7,258	108,202
		収容可能冊数	285,611	1,424,000	296,777	228,139	181,250	189,527	156,000	42,694	201,611	3,005,609
利用者端末台数	34	42	30	13	14	3	12	13	19	180		
利用者	利用対象者総数	7,223	3,953	4,788	686	1,169	55	3,125	771	851	22,621	
	利用者別	学部学生	6,686	2,120	1,849	289	638	0	305	355	489	12,731
		大学院生	244	1,353	1,825	257	332	0	863	204	143	5,221
		教職員	142	480	1,101	131	194	55	1,696	199	178	4,176
		その他	7	0	13	2	1	0	261	13	37	334
		学外登録者総数	144	0	0	7	4	0	0	0	4	159
内訳: 卒業生等24、放送大学108、一般市民27												
開館・入館	開館日数	年間	262	284	259	265	230	232	291	247	267	2,337
		土曜(内数)	35	40	33	35	0	0	50	35	36	264
		休日(内数)	2	33	6	2	0	0	0	0	6	49
	時間外等開館時間数	平日時間外開館	496	611	480	510	508	0	944	474	477	4,500
		土曜開館	157.5	280	148.5	157.5	0	0	400	122.5	162	1,428
		休日開館	9	231	27	9	0	0	0	0	27	303
	入館者数	年間入館者総数	385,207	176,206	142,889	64,323	88,530	1,562	105,445	73,851	48,069	1,086,082
		時間内(含:土日)	347,253	132,730	115,223	54,325	77,192	1,562	70,105	60,692	41,706	900,788
		平日時間外	37,954	43,476	27,323	9,998	11,338	0	19,080	13,159	6,363	168,691
		閉館時(無人)	0	0	343	0	0	0	16,260	0	0	16,603
土曜(内数)		1,976	9,896	3,496	1,124	0	0	5,344	739	1,293	23,868	
休日(内数)		183	5,824	883	63	0	0	0	0	1,027	7,980	
学外者(内数)		515	807	246	191	136	164	2,344	419	288	5,110	
うち一般市民	456	338	107	31	42	56	419	108	132	1,689		
貸出	貸出総冊数	67,723	70,059	30,672	16,129	17,579	4,835	13,778	11,941	17,525	250,241	
	利用者別	学生	47,098	17,349	18,663	4,010	10,817	580	6,579	9,983	8,879	123,958
		院生	16,639	44,037	10,921	10,223	5,804	2,175	2,322	1,358	5,614	99,093
		教員	2,487	7,352	633	1,350	759	1,740	1,413	495	1,972	18,201
		職員	1,157	1,249	298	482	103	340	2,214	86	656	6,585
		その他	93	1	89	13	2	0	1,184	19	402	1,803
		学外者総数	249	71	68	51	94	0	66	0	2	601
うち一般市民	124	0	0	0	0	0	0	0	0	124		
参考調査	参考調査件数	3,289	3,440	1,320	1,330	466	1,123	1,393	1,221	2,172	15,754	
	利用者別	学生	2,932	2,400	880	963	350	616	310	923	1,364	10,738
		教職員	317	480	300	97	50	228	560	98	431	2,561
		学外者	40	560	140	270	66	279	523	200	377	2,455
複写・相互利用	来館複写件数	11,797	16,270	24,039	3,573	5,690	95	27,998	11,612	4,894	105,968	
	利用者別	学内者	10,767	14,059	23,547	3,181	5,422	61	16,841	11,192	4,310	89,380
		学外者	1,030	2,211	492	392	268	34	11,157	420	584	16,588
	学内相互利用	ILL文献複写 受付	112	169	311	219	264	79	812	248	145	2,359
		ILL文献複写 依頼	240	89	371	146	631	1	308	210	130	2,126
	図書配送	配送申込者数	717	499	134	243	494	0	100	101	143	2,431
		配送冊数	1,210	1,089	280	380	1,182	0	144	155	226	4,666
	学外相互利用	ILL文献複写 受付	204	3,551	4,105	797	1,048	447	3,692	317	483	14,644
		ILL文献複写 依頼	797	832	1,991	702	2,218	3	3,650	2,061	206	12,460
		ILL現物貸借 受付	341	976	114	363	115	32	34	16	105	2,096
ILL現物貸借 依頼		381	627	104	426	300	13	7	22	9	1,889	
海外ILL	文献複写 依頼	5	10	1	0	5	0	4	1	0	26	
	現物貸借 依頼	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	

電子的情報サービスの現況 (H16)

導入タイトル数

電子ジャーナル	5,179	H16.4現在
データベース(ネットワーク)	45	全学利用36: WWWアクセス(外部サーバ)5、学内サーバ(ERL等)5、CD-ROMサーバ26 部局内利用9: 医学2、海事2、研究所5
データベース(スタンドアロン)	185	各館館内利用のみ

電子ジャーナルアクセス状況(2004.1~12)

フルテキストへのアクセス数

	2004.1	2004.2	2004.3	2004.4	2004.5	2004.6	2004.7	2004.8	2004.9	2004.10	2004.11	2004.12	合計
Elsevier ScienceDirect	15,238	14,931	13,848	17,945	17,185	18,499	15,712	13,886	17,453	25,399	21,595	38,463	230,154
SpringerLINK	1,138	813	917	1,310	1,336	1,527	1,754	1,075	1,192	1,234	1,629	1,310	15,235
Wiley InterScience	1,417	1,539	1,699	2,020	1,920	2,122	1,764	1,579	1,900	2,388	2,502	2,010	22,860
Blackwell HSS	883	1,388	698	1,337	1,301	1,110	977	943	1,205	1,264	1,689	1,689	14,484
JSTOR	1,582	913	624	610	824	735	745	696	506	925	1,258	989	10,407
Nature	3,079	2,862	2,889	3,023	3,187	3,497	2,915	2,342	2,742	3,544	3,426	2,879	36,385
Science Online	1,275	1,215	1,112	1,061	1,307	1,502	1,102	991	920	1,221	1,278	1,066	14,050
IEEE CSLSP-e	62	76	23	76	63	95	126	50	39	42	69	90	811
ACM Portal	97	51	40	209	142	144	223	145	187	106	274	335	1,953
LWW via Ovid	194	270	265	348	406	351	395	404	544	325	323	370	4,195
ACS	0	1,456	1,648	2,375	2,747	3,325	2,635	3,038	2,909	3,390	3,958	2,657	30,138

データベースアクセス状況(2004.1~12)

各項上段がセッション数、下段(カッコ)が検索数

	2004.1	2004.2	2004.3	2004.4	2004.5	2004.6	2004.7	2004.8	2004.9	2004.10	2004.11	2004.12	合計	
Web of Science SCIE	497 (2,363)	465 (2,648)	441 (2,093)	559 (2,601)	524 (2,369)	683 (3,042)	604 (2,674)	501 (1,979)	625 (2,781)	563 (2,618)	629 (2,639)	489 (2,423)	6,580 (30,230)	
MathSciNet	1921 (3,581)	2,157 (4,116)	2,523 (4,159)	1,828 (2,989)	1,455 (2,684)	1,341 (2,656)	1,300 (2,562)	1,457 (2,855)	1,605 (2,677)	2,067 (3,317)	1,763 (3,124)	2,041 (3,072)	21,458 (37,792)	
SciFinder scholar	2004.11から正式導入											279 (1,224)	184 (730)	491 (1,954)
Readers Guide to Periodical Literature	33 (275)	39 (236)	15 (153)	54 (318)	115 (610)	66 (273)	75 (517)	19 (101)	12 (84)	47 (258)	26 (232)	16 (102)	517 (3,159)	
Business Periodicals Index	52 (397)	60 (531)	59 (690)	90 (644)	142 (1,309)	99 (1,016)	107 (877)	26 (157)	35 (479)	109 (800)	53 (351)	45 (534)	877 (7,471)	
EconLit	410 (3,213)	306 (2,104)	364 (3,104)	512 (5,248)	528 (4,517)	545 (4,627)	531 (4,171)	292 (2,442)	292 (2,828)	525 (4,726)	440 (4,282)	321 (2,734)	5,066 (43,996)	
Index to Legal Periodicals	36 (118)	34 (145)	20 (143)	62 (218)	95 (369)	70 (360)	77 (265)	16 (45)	25 (165)	75 (316)	37 (175)	22 (146)	569 (2,465)	
医学中央雑誌	1,788 (13,393)	1,313 (8,411)	1,506 (9,748)	1,907 (13,925)	1,882 (14,151)	1,842 (13,607)	1,983 (13,508)	1,578 (9,497)	1,473 (10,372)	1,583 (10,997)	1,888 (14,158)	1,836 (13,915)	20,579 (145,682)	
SwetScan	416 (1,675)	261 (1,151)	221 (761)	692 (3,992)	770 (2,677)	530 (2,551)	450 (2,127)	197 (860)	231 (1,174)	417 (1,935)	410 (2,495)	303 (1,374)	4,898 (22,772)	

NACIS-IR、聞蔵(朝日新聞)は統計データ未公開

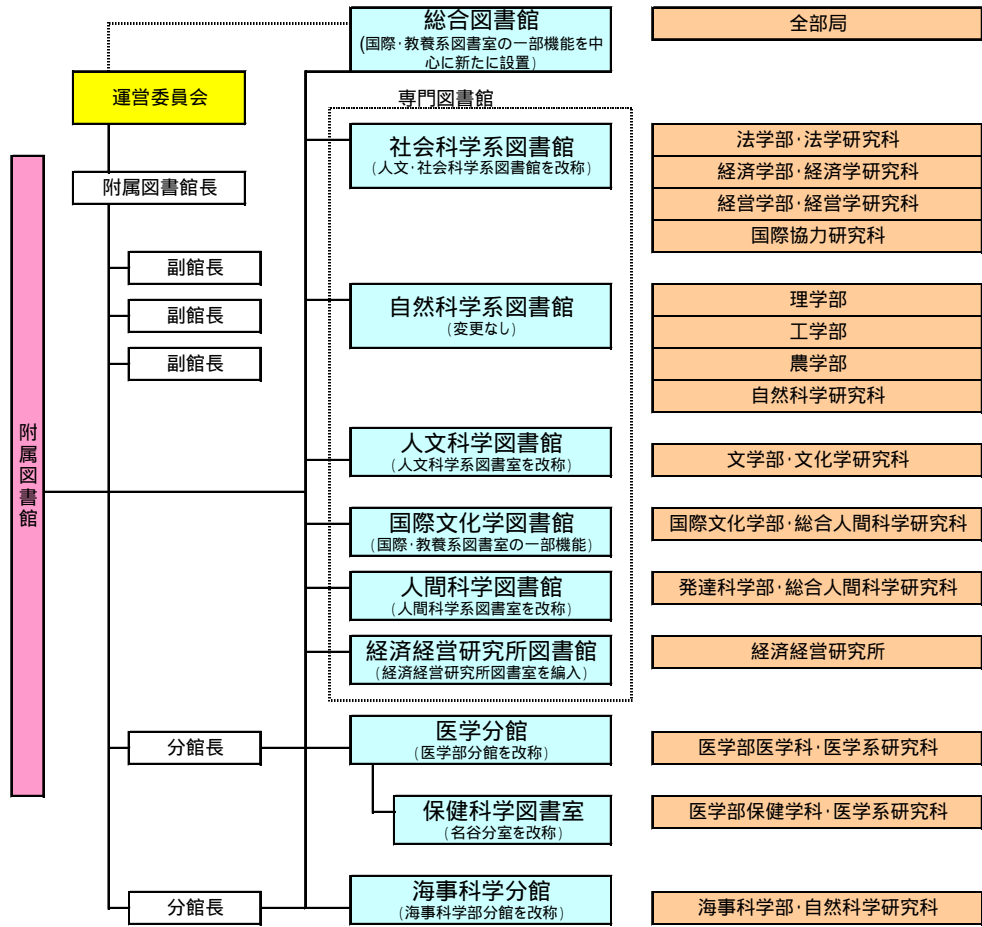
図書館ホームページ、OPAC等アクセス統計(H16.4~H17.3)

	H16.4	H16.5	H16.6	H16.7	H16.8	H16.9	H16.10	H16.11	H16.12	H17.1	H17.2	H17.3	合計
図書館トップページ	48,378	55,760	57,700	61,084	34,310	38,261	56,271	54,613	48,415	47,300	42,036	31,527	575,655
(うち学内)	34,867	40,694	41,309	42,055	20,467	23,874	36,654	36,781	35,055	34,505	29,909	22,425	398,595
(うち学外)	13,511	15,066	16,391	19,029	13,843	14,387	19,617	17,832	13,360	12,795	12,127	9,102	177,060
震災文庫トップページ	4,223	6,453	5,875	5,618	5,060	9,807	17,413	11,567	8,153	9,081	5,916	5,265	94,431
(うち学内)	219	1,612	402	854	118	156	264	379	230	218	202	104	4,758
(うち学外)	4,004	4,841	5,473	4,764	4,942	9,651	17,149	11,188	7,923	8,863	5,714	5,161	89,673
新聞記事文庫トップページ	4,114	6,397	6,282	6,592	5,573	5,984	6,367	6,382	5,655	5,958	5,104	4,989	69,397
(うち学内)	129	1,552	224	648	125	63	81	66	71	85	80	127	3,251
(うち学外)	3,985	4,845	6,058	5,944	5,448	5,921	6,286	6,316	5,584	5,873	5,024	4,862	66,146
OPAC延べ検索回数	100,804	115,559	132,132	147,734	59,038	63,282	117,207	121,874	91,593	105,570	78,414	62,261	1,195,498
(うち学内)	84,208	94,007	109,299	120,209	43,998	48,250	94,177	98,985	73,803	84,712	61,827	47,677	961,152
(うち学外)	16,596	21,552	22,833	27,525	15,040	15,032	23,030	22,889	17,790	20,858	16,587	14,584	234,316

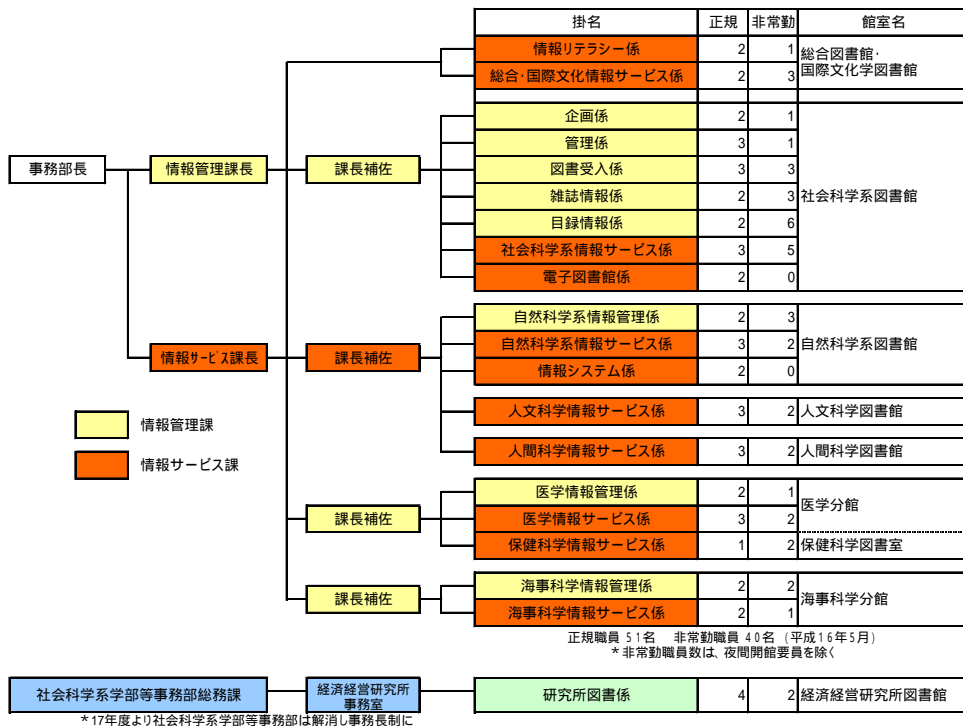
神戸大学電子図書館の現況

資料名	データ件数	データ数の内容	電子化資料数	資料数の内容	アクセス数(H16年度)		
					学内	学外	計
震災デジタルアーカイブ	215,086	メタデータ数	4,077	資料数	4,758	89,673	94,431
新聞記事文庫	93,777	メタデータ数	93,777	記事数	3,251	66,146	69,397
住田文庫	8,070	メタデータ数	114	資料数	187	8,529	8,716
神戸開港文書	1	(目録のみ)	1	資料数	69	1,338	1,407
紀要目次情報	26,917	メタデータ数	1	DB数	324	2,142	2,466
学位論文情報	3,546	メタデータ数	1	DB数	355	1,827	2,182
科学研究費成果報告書情報	1,561	メタデータ数	1	DB数	140	1,428	1,568
e-Learning 解剖学講義ノート	6	資料数	6	資料数	629	76,947	77,576
生命の源 - 海底熱水系の地下を探る	1	動画数	1	動画数	87	1,194	1,281
瀬戸内海海草類標本データベース	230	標本数	230	標本数	117	5,346	5,463
中川家文書	283	資料数	283	資料数	50	2,295	2,345
王敬祥関係文書	161	資料数	161	資料数	441	2,154	2,595
浄土寺縁起	1	資料数	1	資料数	79	2,304	2,383
広峰神社古文書	19	資料数	19	資料数	298	1,947	2,245
渋谷文庫	8	画像数	8	画像数	235	1,008	1,243
計					11,020	264,278	275,298

< 附属図書館組織図 >



< 附属図書館事務組織図 >



平成16年度附属図書館諸会議一覧

<附属図書館運営委員会>

第1回： 5月11日（火） 17:00～19:00（於：自然科学系図書館会議室）

報告事項

- (1) 各図書館・室報告（図書委員会開催報告）
- (2) 中期目標・計画に伴う年次計画について
- (3) 平成15年度年次報告について
- (4) 平成15年度電子図書館システム事業について
- (5) 平成15年度遡及入力事業について
- (6) オリエンテーション・ガイダンスについて
- (7) 阪神・淡路大震災十周年事業について
- (8) その他（役員会ヒアリング、広報委員会、社会系集密書架、科学研究費）

協議事項

- (1) 15年度決算報告について
- (2) 16年度予算（案）について
- (3) 評価体制について
- (4) 研究開発室の体制について
- (5) 2005年講読雑誌の見直しについて

第2回： 7月29日（木） 15:00～17:15（於：自然科学系図書館会議室）

報告事項

- (1) 各図書館・室報告（図書委員会開催報告、社会科学系図書館増築移転）
- (2) 平成16年度年度計画について
- (3) 国立大学図書館協会総会について
- (4) 震災十周年事業について
- (5) 研究開発室の体制について
- (6) 図書管理規程の制定について
- (7) 前期オリエンテーション・ガイダンス結果について

協議事項

- (1) 平成16年度予算（案）について
- (2) 学生用資料の整備計画について
- (3) 2005年度の外国雑誌及び電子ジャーナルについて
- (4) 平成16年度電子図書館事業について
- (5) 平成16年度遡及入力事業について
- (6) 一般市民への資料貸出について
- (7) その他（SciFinderの導入）

第3回： 10月12日（火） 10:30～12:00（於：附属図書館プレゼンホール）

報告事項

- (1) 各図書館・室報告（図書委員会開催報告、社会科学系図書館増築オープン）
- (2) 附属図書館研究開発室会議について
- (3) 震災文庫展示会・講演会について
- (4) SciFinderの導入について

- (5) その他(図書館施設整備要求、兵庫県大学図書館協議会、後期ガイダンス)

協議事項

- (1) 2005年度の外国雑誌及び電子ジャーナルについて
- (2) 学生用資料の整備計画について
- (3) プレゼンテーションホールの運用について
- (4) 図書の不用品決定について(経済経営研究所図書館)

第4回： 12月8日(水) 17:00~18:15 (於：自然科学系図書館会議室)

報告事項

- (1) 各図書館・室報告(図書委員会開催報告)
- (2) 震災文庫展示会・講演会について
- (3) 目標・評価活動について
- (4) 後期のガイダンスについて

協議事項

- (1) 図書館施設・設備の整備計画について
- (2) 17年度の利用サービスについて

第5回： 3月15日(火) 10:00~12:15 (於：自然科学系図書館会議室)

報告事項

- (1) 各図書館・室報告(図書委員会開催報告)
- (2) 16年度附属図書館年次報告について
- (3) 16年度部局達成度報告について
- (4) 17年度年度計画について
- (5) 部局長裁量経費について
- (6) SciFinder データベース利用申請について
- (6) その他(ネットワーク書店の利用)

協議事項

- (1) 17年度附属図書館予算について
- (2) 学生用資料費について
- (3) 学外者への貸出サービスについて
- (4) 利用規程・利用細則の改正について
- (5) 図書の不用品決定について(経済経営研究所図書館)

< 附属図書館長・副館長・分館長懇談会 >

第1回： 4月9日(金) 10:00~ (於：自然科学系図書館会議室)

議題

- (1) 附属図書館の概要について
- (2) 当面する諸問題について
- (3) 16年度図書館予算について
- (4) 社会科学系図書館の増築移転について
- (5) 全学会議の分担について

第2回： 7月23日（金） 10:30～（於：自然科学系図書館会議室）

議題

- （1）16年度年度計画について
- （2）17年度概算要求について
- （3）各種委員会報告について（図書委員会、広報委員会、震災十周年事業委員会等）
- （4）法人化後の資料購入手続について
- （5）社会科学系図書館増築移転について
- （6）16年度図書館予算について
- （7）2005年外国雑誌見直し及び電子ジャーナルについて
- （8）一般市民への資料貸出について

第3回： 8月31日（火） 17:00～（於：自然科学系図書館会議室）

議題

- （1）図書委員会報告について
- （2）図書館施設整備（予算要求）について
- （3）16年度予算第2次追加配分について（学生用資料整備計画）
- （4）2005年外国雑誌見直し及び電子ジャーナルについて

第4回： 12月2日（木） 17:00～（於：自然科学系図書館会議室）

議題

- （1）各種委員会報告等について（図書委員会、情報・評価室訪問調査）
- （2）震災文庫展示会・講演会実施報告について
- （3）16年度後期の図書館ガイダンス実施報告について
- （4）16年度予算第3次追加配分について（施設・設備整備計画）

第5回： 2月22日（火） 10:00～（於：自然科学系図書館会議室）

議題

- （1）運営委員の交替について
- （2）16年度予算について（部局長裁量経費追加措置案）
- （3）17年度予算について（学長ヒアリングほか）
- （4）学外者への貸出サービスについて（試行実施結果）

< 附属図書館評価委員会 >

第1回： 2月22日（火） 11:30～（於：自然科学系図書館会議室）

報告事項

- （1）評価関係スケジュール等について
- （2）平成17年度以降年次計画見直しについて
- （3）平成17年度全学版年度計画について

審議事項

- （1）平成16年度附属図書館年次報告の作成について
- （2）平成16年度部局年次計画達成度報告について

< 附属図書館研究開発室会議 >

第1回： 10月8日(金) 11:00～(於：自然科学系図書館会議室)
議題

- (1) 研究開発室設置要項の改正について
- (2) 平成15年度電子図書館システム事業報告について
- (3) 平成16年度電子図書館システム事業計画について
- (4) その他(震災文庫展示会)

< 全学図書系係長会議 >

第1回： 5月14日(金) 15:00～(於：自然科学系図書館会議室)
議題

- (1) 15年度年次報告及び今後の評価活動について
- (2) 16年度図書館予算について
- (3) 資料購入手続き等について
- (4) 就業規則等について
- (5) 電子図書館事業等について
- (6) 情報リテラシー教育支援について
- (7) 阪神・淡路大震災十周年事業について
- (8) 社会科学系図書館増築について
- (9) 諸会議報告(学外諸会議、学内諸会議、館内諸会議等)
- (10) 各補佐・係長報告

第2回： 7月14日(金) 15:30～(於：自然科学系図書館会議室)
議題

- (1) 図書館予算・業務標準化等について
- (2) 資料購入手続き等について
- (3) 就業規則・安全衛生等について
- (4) 利用サービス関連のWGについて
- (5) 社会科学系図書館増築について
- (6) 諸会議報告(学外諸会議、学内諸会議、館内諸会議等)
- (7) 各補佐・係長報告

第3回： 1月7日(金) 15:00～(於：図書館プレゼンホール)
議題

- (1) 目標・評価活動について
- (2) 図書館予算・事業計画等について
- (3) 資料管理等について
- (4) 各種事業等について(震災十周年、電子図書館、リテラシー、市民貸出、GIF)
- (5) 平成17年度の開館時間について
- (6) 労働時間・休暇等の取扱いについて
- (7) ILLに関わる現金収納について
- (8) 劣化資料の取扱いについて
- (9) 諸会議報告(学外諸会議、学内諸会議、館内諸会議等)
- (10) 各補佐・係長報告

第4回： 3月23日（水） 15:00～（於：自然科学系図書館会議室）

議題

- （1）目標・評価活動について
- （2）図書館予算等について
- （3）資料管理等について
- （4）利用者サービスについて
- （5）震災十周年事業について
- （6）17年度の運営体制について
- （7）17年度附属図書館初任者等研修について
- （8）諸会議報告（学外諸会議、学内諸会議、館内諸会議等）
- （9）各補佐・係長報告

< 附属図書館運営委員会委員名簿 >

	職 名	氏 名	任 期 等
図書館長	理事・教授(～H17.2.15) 理・教授(H17.2.16～)	佐々木 武	H15.4.1～H17.3.31
副館長	文・教授	森 紀子	H16.4.1～H17.3.31
副館長 (社会科学系・図書委員長)	法・教授	伊藤 光利	H16.4.1～H17.3.31
副館長 (自然科学系・図書委員長)	工・教授	安田 丑作	H16.4.1～H17.3.31
医学分館長	医・教授	尾原 秀史	H16.4.1～H18.3.31
海事科学分館長	海・教授	鈴木 三郎	H16.4.1～H18.3.31
文学部・文化学研究科	教 授	長谷川 孝治	H16.4.1～H17.3.31
国際文化学部	教 授 教 授	寺内 直子 定延 利之	H16.4.1～H16.9.30 H16.10.1～H18.3.31
発達科学部	教 授	廣木 克行	H16.4.1～H18.3.31
法学研究科	教 授	飯田 文雄	
経済学研究科	教 授	重富 公生	H16.4.1～H18.3.31
経営学研究科	教 授	金井 壽宏	H16.4.1～H17.3.31
理学部	教 授	林 文夫	H16.4.1～H18.3.31
医学部(保健学科)	教 授	傳 秋光	H16.4.1～H18.3.31
工学部	自然・教授	薦原 道久	H16.4.1～H17.3.31
農学部	教 授	向井 文雄	H16.4.1～H18.3.31
自然科学研究科	分子・教授	富永 圭介	H16.4.1～H17.3.31
国際協力研究科	教 授	五十嵐 正博	H16.4.1～H18.3.31
経済経営研究所	教 授 教 授	西島 章次 富田 昌宏	H16.4.1～H17.2.15 H17.2.16～H17.3.31
大学教育研究センター	教 授	米谷 淳	H16.4.1～H17.3.31
学術情報基盤センター	教 授	鳩野 逸生	H16.4.1～H18.3.31
附属図書館	事務部長(～H16.6.30) 事務部長(H16.7.1～)	三浦 勝利 故選 義浩	官職指定による

< 附属図書館評価委員会委員名簿 >

職名 (委員は全て官職指定)	氏名	備考
図書館長	佐々木 武	
副館長	森 紀子	委員長
副館長	伊藤 光利	
副館長	安田 丑作	
医学分館長	尾原 秀史	
海事科学分館長	鈴木 三郎	
事務部長	三浦 勝利 故選 義浩	~ H16.6.30 H16.7.1 ~
情報管理課長	石井 道悦	
情報サービス課長	山田 周治	

< 附属図書館研究開発室会議室員名簿 >

職名		氏名	備考
総括	図書館長	佐々木 武	室長
震災関係資料 電子化部会	副館長(工)	安田 丑作	部会長
	国文・教授	大月 一弘	~ H18.3.31
	都市安・教授	沖村 孝	~ H18.3.31
	文・助教授	奥村 弘	~ H18.3.31
経済関係資料 電子化部会	副館長(法)	伊藤 光利	部会長
	研究所・教授	富田 昌宏	~ H18.3.31
	経済・教授	重富 公生	~ H18.3.31
	海事・教授	石田 憲治	~ H18.3.31
学内研究成果 電子化部会	副館長(文)	森 紀子	部会長
	農・助教授	金子 治平	~ H18.3.31
	経営・助教授	與三野 禎倫	~ H18.3.31
	都市安・教授 (医学系研究科)	鎌江 伊三夫	~ H18.3.31
(部会に属さず)	基盤セ・教授	鳩野 逸生	~ H18.3.31

事 項	平成16年度 予算額	平成16年度 決算額	比較増減
経常運営費			
備品・消耗品費	15,189	24,444	9,255
印刷製本費	1,500	1,430	70
光熱水料	31,000	23,897	7,103
通信運搬費	4,800	5,358	558
借料及び損料	8,819	8,715	104
雑役務等諸経費	32,000	31,063	937
非常勤職員給与等	106,500	105,880	620
電子計算機維持経費	5,112	3,726	1,386
職員旅費	1,450	948	502
小 計	206,370	205,461	909
経常事業費			
時間外開館経費	18,000	15,032	2,968
電子図書館事業	19,000	18,100	900
外部委託経費(コンテンツ作成)	10,000	8,907	1,093
外部委託経費(遡及外注)	5,000	5,969	969
アルバイト経費	3,000	2,109	891
消耗品費	1,000	1,115	115
図書館資料費	88,000	90,398	2,398
図書館資料費(学生用等)	41,000	44,232	3,232
外国雑誌センター館経費	35,000	31,101	3,899
電子の情報基盤資料整備経費	12,000	15,065	3,065
製本費	13,630	15,741	2,111
小 計	138,630	139,271	641
運営費+事業費	345,000	344,732	268
電算機借料			
図書館業務システム	13,870	13,869	1
電子図書館システム	55,410	55,410	0
小 計	69,280	69,279	1
経常経費 計	414,280	414,011	269
臨時的経費			
建物新営設備費	37,856	37,442	414
移転費	17,864	19,293	1,429
教育特別設備費	42,475	42,475	0
教育環境改善特別経費	21,301	19,669	1,632
部局長裁量経費	33,332	38,370	5,038
学長裁量経費	6,524	6,523	1
労働安全衛生対策経費	5,178	5,146	32
営繕関係費	2,694	2,694	0
職員厚生経費	55	55	0
赴任旅費	720	720	0
収入見合経費(複写等料金)	1,929	4,625	2,696
小 計	169,928	177,012	7,084
その他の臨時的経費			
教員等館内複写料金	3,179	0	3,179
Scifinder 利用者負担金	2,913	0	2,913
小 計	6,092	0	6,092
外部資金			
間接経費	15,360	15,360	0
科学研究費補助金	13,900	13,900	0
附帯設備費	9,333	9,333	0
山口文庫	34	34	0
田嶋記念財団補助金	1,700	1,700	0
小 計	40,327	40,327	0
臨時的経費 計	216,347	217,339	992
図書館セグメント 計	630,627	631,350	723

注)収入見合経費配分は7,344、うち当初及び7月追加分5,415は、経常経費予算に合算した。

平成16年度 図書資料費実績

単位:千円 2005.5.16

(附属図書館セグメント)

館室名	学生用図書			電子的情報資料*	外国雑誌センター	計**
	予算額	決算額	比較増減			
総合図書館	14,846	14,946	100	30,425		45,371
社会科学系図書館	5,068	5,509	441		31,101	36,610
自然科学系図書館	9,353	10,053	700			10,053
人文科学図書館	1,469	1,681	212			1,681
国際文化学図書館	1,978	1,978	0			1,978
人間科学図書館	2,017	2,219	202			2,219
経済経営研究所図書館	0	0	0			0
医学分館	2,356	3,432	1,076			3,432
保健科学図書室	1,587	1,587	0			1,587
海事科学分館	2,326	2,826	500			2,826
小計	41,000	44,231	3,231	30,425	31,101	105,757

注* 間接経費 受益者負担金を含む

** これ以外に、電子コンテンツ作成費 22,065千円 (科研費補助金を含む)

(部局セグメント)

館室名	一般財源 図書資料費		
	館室備付 共同利用	研究室等 備付	計
総合図書館	3,222	2,746	5,968
社会科学系図書館	133,290	28,529	161,819
自然科学系図書館	136,063	19,496	155,559
人文科学図書館	8,998	7,548	16,546
国際文化学図書館	6,509	18,801	25,310
人間科学図書館	5,956	21,708	27,664
経済経営研究所図書館	36,877	2,332	39,209
医学分館	59,256	2,317	61,573
保健科学図書室	8,251	4,103	12,354
海事科学分館	11,630	6,471	18,101
計	410,052	114,051	524,103

(合計)

館室名	補助金による購入				合計	(外数) COE等
	科研費	委任経理	受託研究	計		
総合図書館	0	0	0	0	51,339	0
社会科学系図書館	39,465	2,426	448	42,339	240,769	10,905
自然科学系図書館	6,791	909	2,301	10,001	175,613	90
人文科学図書館	9,911	43	100	10,054	28,281	2,221
国際文化学図書館	7,876	0	145	8,021	35,309	0
人間科学図書館	4,405	47	0	4,452	34,335	0
経済経営研究所図書館	145	198	308	651	39,860	0
医学分館	409	6,298	1,606	8,313	73,318	0
保健科学図書室	272	442	0	714	14,655	0
海事科学分館	1,101	27	47	1,175	22,102	0
計	70,375	10,390	4,955	85,720	715,581	13,216

平成16年度附属図書館活動日誌

< 4月 >

- 6 (火) 入学式
前期時間外開館開始 (医学分館は通年、社会科学系は1日から)
- 9 (金) 第1回館長・副館長・分館長懇談会
留学生ウエルカムセレモニー (図書館ガイダンスを含む)
< 於: 六甲ホール >
- 12 (月) ~ 15 (木) 情報の探し方ガイダンス (入門編) < 於: 総合図書館 >
15 (木) 第1回社会科学系図書館図書委員会
創立記念日のため休館
- 16 (金) 第1回海事科学分館図書委員会
- 20 (火) 新衛生管理者等の実務研修会 < 於: 瀧川会館 受講: 2名 >
- 22 (木) 兵庫県大学図書館協議会企画委員会
< 於: 自然科学系図書館 出席: 事務部長・両課長ほか >
第1回自然科学系図書館図書委員会
- 23 (金) 近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会
< 於: 京都大学 出席: 両課長 >
国立大学図書館協会近畿地区総会
< 於: 京都大学 出席: 館長・両課長 >
- 26 (月) ~ 28 (水) 附属図書館初任者等研修 < 於: 自然科学系図書館ほか 受講: 14名 >

< 5月 >

- 7 (木) 近畿地区医学図書館協議会例会
< 於: 近畿大学医学部 出席: 医学情報サービス係長 >
- 10 (月) ~ 14 (金) 情報の探し方ガイダンス (初級編) < 於: 総合図書館 >
- 11 (火) 16年度年度計画・事業計画学長ヒアリング < 於: 本部大会議室 >
第1回附属図書館運営委員会 < 於: 自然科学系図書館 >
- 14 (金) 第1回全学図書系係長会議 < 於: 自然科学系図書館 >
- 18 (火) 監事による視察 < 於: 社会科学系、総合、自然科学系各図書館 >
- 19 (水) 外国雑誌センター館会議 < 於: 東京工業大学 出席: 両課長 >
- 20 (木) 国立大学図書館協会会計監査 < 於: 東京大学 出席: 両課長 >
第1回医学分館図書委員会
- 21 (金) 国立大学図書館協会理事会 < 於: 東京大学 出席: 両課長 >
第2回海事科学分館図書委員会
- 21 (金) ~ 8 / 11 (水) 全学共通科目「情報基礎」授業 (計27回)
- 25 (火) 第1回国際文化学図書館図書委員会
- 26 (水) 管理職員安全衛生研修会 < 於: 自然科学研究科 受講: 3名 >
- 27 (木) 日本医学図書館協会総会
< 於: 学術総合センター 出席: 医学情報サービス係長 >
パソコン管理運用担当者研修 < 於: 本部中会議室 受講: 2名 >

< 6月 >

- 7 (月) 兵庫県大学図書館協議会企画委員会
< 於: 神戸親和女子大学 出席: 両課長ほか >

7 (月) ~ 1 1 (金)	第 1 回経済経営研究所図書館図書委員会 情報の探し方ガイダンス (中級編) < 於: 自然科学系図書館 >
8 (火)	第 2 回社会科学系図書館図書委員会
9 (水)	第 1 回人間科学図書館図書委員会 第 1 回人文科学図書館図書委員会
1 1 (金)	近畿地区国公立大学図書館協議会総会 < 於: 国際日本文化研究センター 出席: サービス課長ほか >
1 4 (月)	第 3 回海事科学分館図書委員会
1 6 (水)	第 2 回医学分館図書委員会
1 8 (金)	第 1 回保健科学図書室図書委員会 職場における法律問題に関する研修会 < 於: 瀧川会館 受講: 2 名 >
2 1 (月)	台風 6 号接近のため、夜間開館休止
2 3 (水)	Source OECD セミナー < 於: 六甲台第 3 学舎 >
2 4 (木)	第 1 回管理職セミナー < 於: 自然科学研究科 受講: 6 名 >
2 9 (火)	兵庫県下教育機関事務系職員新規採用者研修 < 於: 神戸大学、淡路青年の家 受講: 4 名 >
3 0 (水)	近畿地区医学図書館協議会等共催シンポジウム実行委員会 < 於: 京都府立医科大学 出席: 医学情報サービス係長 >
< 7 月 >	
1 (木)	国立大学図書館協会総会 < 於: 大阪大学 出席: 館長・事務部長・両課長 >
5 (月) ~ 1 6 (金)	増築移転のため ILL 受付停止 (社会科学系図書館 9 月末まで) 大学図書館長期研修 < 於: 国立オリンピック記念青少年センター 受講: 自然科学系情報管理係長 >
5 (月) ~ 7 (水)	目録システム地域講習会 < 於: 京都大学 受講: 海事科学情報管理係事務補佐員 >
1 1 (日)	近畿地区国立大学法人等職員採用試験合同図書系二次試験 < 於: 京都大学 要員: 管理課長、企画係長 >
1 2 (月) ~ 1 5 (木)	衛生管理者受験準備講習会 < 於: 神大会館 受講: 1 名 >
1 3 (火)	第 3 回社会科学系図書館図書委員会
1 3 (火) ~ 2 9 (木)	前期試験期特別開館 (自然系図書館)
1 3 (火) ~ 3 0 (金)	前期試験期特別開館 (社会系図書館)
1 4 (水)	第 2 回全学図書系係長会議 < 於: 自然科学系図書館 >
1 5 (木)	近畿地区国公立大学図書館協議会講演会「大学図書館のメディアサービス」 < 於: 京都大学 受講: 1 名 >
1 7 (土) ~ 2 9 (木)	前期試験期特別開館 (海事科学分館)
2 1 (水) ~ 2 9 (木)	前期試験期特別開館 (人間科学図書館)
2 2 (木) ~ 2 9 (木)	前期試験期特別開館 (総合・国際文化学図書館、人文科学図書館)
2 3 (金)	第 3 回館長・副館長・分館長懇談会 < 於: 自然科学系図書館 > セミナー「IC タグを活用した次世代型図書館運営」 < 於: 阪急ターミナルビル (大阪) 受講: 1 名 >
2 8 (水)	兵庫県大学図書館協議会総会 < 於: 神戸親和女子大学 出席: 館長・事務部長・両課長ほか >
2 9 (木)	第 2 回附属図書館運営委員会 < 於: 自然科学系図書館 >

31(土)	前期時間外開館終了(医学分館は通年時間外開館)
< 8月 >	
2(月)	アプリケーションソフト研修(エクセル初級) <於: 基盤センター分館 受講: 3名>
2(月)~6(金)	書庫整理のため休館(海事科学分館)
2(月)~13(金)	書庫整理のため休館(人間科学図書館)
2(月)~9/30(木)	増築移転のため社会科学系図書館部分閉館(一部サービス停止) * 新着雑誌以外の資料利用不可、時間外開館停止 * 8/30~9/10は全面休館
3(火)	アプリケーションソフト研修(エクセル応用) <於: 基盤センター分館 受講: 2名>
4(水)~6(金)	アプリケーションソフト研修(アクセス) <於: 基盤センター分館 受講: 3名>
4(水)~6(金)	医学図書館員基礎研修会 <於: 東京大学 受講: 医学情報サービス係員>
12(木)	第2回自然科学系図書館図書委員会
12(木)~20(金)	書庫整理のため休館(総合・国際文化学図書館)
16(月)~31(火)	書庫整理のため休館(保健科学図書室)
17(火)	電源設備点検(停電)のため休館(六甲台キャンパス各館)
18(水)~19(木)	防火管理講習 <於神戸市防災コミュニティセンター 受講: 管理課長>
19(木)	電源設備点検(停電)のため休館(総合・国際、人文)
20(金)	電源設備点検(停電)のため休館(社会科学系、経済経営研究所)
23(月)~27(金)	書庫整理のため休館(人文科学図書館)
25(水)~27(金)	図書館等職員著作権実務講習会 <於: 九州大学 受講: 人文科学情報サービス係員>
30(月)~9/10(金)	増築移転作業のため社会科学系図書館全面休館
31(火)	第3回館長・副館長・分館長懇談会 <於: 自然科学系図書館>
< 9月 >	
2(木)	アプリケーションソフト研修(ワード) <於: 基盤センター分館 受講: 2名> 附属図書館事務部係長会議 <於: 自然科学系図書館>
3(金)	アプリケーションソフト研修(パワーポイント) <於: 基盤センター分館 受講: 3名>
6(月)~7(火)	アプリケーションソフト研修(アクセス上級) <於: 基盤センター分館 受講: 2名>
6(月)~14(火)	書庫整理のため休館(経済経営研究所図書館)
7(火)	台風18号接近のため途中閉館
14(火)	第4回社会科学系図書館図書委員会
15(水)	第2回国際文化学図書館図書委員会
16(木)	シンポジウム「大学における学術情報資源の整備」 <於: 京都大学 参加: 4名>
17(金)	第4回海事科学分館図書委員会
22(水)	第2回人文科学図書館図書委員会

- 救急講習会 <於：大教センター体育館 受講：4名>
 29(水) 近畿地区医学図書館協議会等共催シンポジウム実行委員会
 <於：京都国際交流会館 出席：医学情報サービス係長>
- <10月>
- 1(金) 社会科学系図書館増築オープン
 後期時間外開館の開始(医学分館は通年時間外開館)
- 4(月)~8(金) 漢籍整理研修(初級)
 <於：京都大学 受講：人間科学情報サービス係員>
- 6(水) 近畿地区国公立大学図書館協議会講演会「図書館員の技量の発達」
 <於：京都大学 受講：2名>
- 6(水)~1/26(水) 事務系職員語学(英語・中級)研修
 <於：神大会館ほか 受講：社会科学系情報サービス係員>
- 8(金) 附属図書館研究開発室会議 <於：自然科学系図書館>
 近畿地区医学図書館協議会等共催シンポジウム
 <於：京都国際交流会館 参加：医学情報サービス係長>
- 9(土) 学民連携シンポジウム「大学と市民で創る地域コミュニティの可能性」
 <於：神戸市勤労開館 参加：2名>
- 12(火) 第3回附属図書館運営委員会 <於：図書館プレゼンホール>
 東京オフィス研修会 <於：瀧川会館 受講：1名>
 留学生ウエルカムセレモニー(図書館ガイダンスを含む)
 <於：六甲ホール>
- 18(月)~29(金) 総合目録データベース実務研修
 <於：国立情報学研究所 受講：情報システム係員>
- 19(火) フロンティア館竣工記念式典・祝賀会
- 20(水) 台風23号接近のため途中閉館
- 第3回経済経営研究所図書館図書委員会
- 21(木)~28(水) 情報の探し方ガイダンス(中級編 社会科学系資料特集)
 <於：社会科学系図書館>
- 22(金) 国立大学図書館協会理事会
 <於：京都大学 出席：館長・事務部長・管理課長>
- 27(水) 第3回管理職セミナー <於：瀧川会館 受講：3名>
- <11月>
- 1(月)~2(火) NAIST 電子図書館学講座
 <於：奈良先端科学技術大学院大学 受講：電子図書館係員>
- 2(火) 関西学院大学図書館研修会「映像資料の著作権」
 <於：関西学院大学 受講：2名>
- SciFinder データベース操作説明会 <於：自然科学系図書館>
- 4(木) 継続資料の取扱いに関する小委員会
 <於：国立情報学研究所 出席：企画係長>
- 5(金) 阪神・淡路大震災十周年事業レガシー学術シンポジウム(人文社会科学系)
 <於：瀧川会館 参加：1名>
- 6(土)~12/12(日) 国際交流関係担当職員海外語学研修
 <於：豪クイーンズランド大 受講：研究所図書係員>

8 (月)	職場における法律問題に関する研修会 < 於：瀧川会館 受講：2名 >
8 (月) ~ 14 (日)	震災文庫展示会 < 於：図書館プレゼンホール >
9 (火) ~ 12 (金)	大学図書館職員講習会 < 於：京都大学 受講：人文科学情報サービス係員 >
11 (木)	一橋大学附属図書館より2名来館 (社会科学系図書館)
12 (金)	震災文庫記念講演会 < 於：図書館プレゼンホール >
15 (月)	リスクマネジメント研修会 < 於：自然科学研究科 受講：2名 >
17 (水) ~ 19 (金)	医学図書館研究会・継続教育コース < 於：川崎医科大学 受講：医学情報サービス係員 >
18 (木)	国立大学図書館協会人材委員会 < 於：東京大学 出席：管理課長 >
18 (木) ~ 19 (金)	近畿地区著作権セミナー < 於：和歌山県勤労福祉会館 受講：社会科学系情報サービス係員 >
19 (金)	兵庫県大学図書館協議会講演会「大学図書館の経営と評価」 < 於：関西学院大学 受講：7名 >
24 (水)	第5回海事科学分館図書委員会 情報・評価室訪問調査 < 於：自然科学系図書館 > YLP 対象講習会 < 於：国際協力研究科 >
25 (木)	第2回人間科学図書館図書委員会
26 (金)	国立大学図書館協会近畿地区協会事務連絡会 < 於：京都大学 出席：事務部長・両課長 >
29 (月)	京都大学附属図書館講演会「図書館・文書館における資料保存」 < 於：京都大学 受講：1名 >
29 (月) ~ 30 (火)	国立大学図書館協会シンポジウム (西地区) < 於：広島大学 参加：サービス課補佐 >
< 12月 >	
1 (水)	経営協議会学外委員の施設視察 (社会科学系図書館)
2 (木)	第4回館長・副館長・分館長懇談会 < 於：自然科学系図書館 >
3 (金)	兵庫県大学図書館協議会研究会「アウトソーシング」 < 於：園田学園女子大学 参加：5名 >
8 (水)	徳島大学附属図書館より情報管理課長ほか来館 第4回附属図書館運営委員会 < 於：自然科学系図書館 >
9 (木)	NII 大学図書館等関連事業説明会 < 於：キャンパスプラザ京都 参加：3名 >
13 (月)	学術ポータル担当者研修 < 於：国立情報学研究所 受講：情報リテラシー係員 >
15 (水)	国際セミナー「デジタル時代のドキュメントデリバリーサービス」 < 於：国立国会図書館関西館 受講：2名 > 第4回管理職セミナー < 於：瀧川会館 受講：5名 >
16 (木) ~ 17 (金)	資料購入・次期システム等に関する出張調査 < 於：東北大学、東京大学 参加：図書受入・雑誌情報・システム各係長、図書受入係員 >
17 (金)	電子ジャーナル利用講習会 < 於：海事科学部 >
20 (月)	近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験実施委員会

< 於：大阪大学 出席：事務部長・管理課長 >

< 1月 >

- 7 (金) 第3回全学図書系係長会議 < 於：図書館プレゼンホール >
14 (金) ~ 15 (土) センター入試のため時間外開館休止
(医学分館は開館、社会科学系・自然科学系は14日は夜間開館)
17 (月) 神戸大学阪神・淡路大震災10周年慰霊事業
< 於：慰霊碑前、六甲ホール 出席：館長ほか >
18 (火) ~ 22 (土) 国連防災会議総合防災展(震災文庫をパネル・電子展示)
< 於：神戸国際展示場 >
19 (水) ~ 21 (金) 学術情報リテラシー教育担当者研修
< 於：大阪大学 受講：社会科学系情報サービス係員 >
24 (月) 第4回経済経営研究所図書委員会
25 (火) ~ 27 (木) 日本古典籍講習会
< 於：国文学研究資料館 受講：総合国際文化学情報サービス係長 >
27 (木) 17年度事業計画学長ヒアリング < 於：自然科学研究科 >
27 (木) ~ 28 (金) アジア情報研修
< 於：国立国会図書館関西館 受講：情報リテラシー係員 >
28 (金) 国立大学図書館協会経営問題委員会・小委員会合同会議
< 於：九州大学 出席：サービス課長 >
セカンドライフセミナー < 於：瀧川会館 受講：3名 >
31 (月) ~ 2 / 15 (火) 後期試験期特別開館(社会科学系図書館)

< 2月 >

- 1 (火) ~ 9 (水) 後期試験期特別開館(総合・国際文化学、人文科学、人間科学各館)
1 (火) ~ 14 (月) 後期試験期特別開館(自然科学系図書館)
4 (金) 永年勤続表彰式
< 於：六甲ホール 対象者：2名(20年表彰) >
4 (金) ~ 17 (木) 後期試験期特別開館(海事科学分館)
17 (木) NACSIS-CAT/ILL講習会実施検討会議
< 於：国立情報学研究所 出席：目録情報係長 >
18 (金) ~ 3 / 4 (金) 改修工事のため臨時休館(自然科学系図書館)
21 (月) シンポジウム「災害と図書館」(兵庫県大学図書館協議会後援)
< 於：新長田勤労市民センター 参加：3名 >
22 (火) 第5回館長・副館長・分館長懇談会 < 於：自然科学系図書館 >
第1回附属図書館評価委員会 < 於：自然科学系図書館 >
23 (水) 兵庫県図書館協会研究集会「図書館と危機管理について」
< 於：加古川総合文化センター 参加：4名 >
監査法人による期中監査
24 (木) レファレンス協同データベース実験事業参加館フォーラム
< 国立国会図書館関西館 参加：1名 >
24 (木) 前期入試前日のため時間外開館休止
(医学分館、社会科学系、自然科学系を除く)
25 (金) 前期入試当日のため休館(医学分館を除く)
28 (月) 後期時間外開館終了(医学は通年、社会系は3月も時間外開館実施、

自然系は 2/18 から臨時休館)

< 3月 >

- 1 (火) 産業医巡視 < 於: 社会科学系図書館 >
個人情報保護研修会 < 於: 瀧川会館 受講: 7名 >
- 3 (木) セクシャルハラスメント相談員研修会
< 於: 図書館プレゼンホール 受講: 1名 >
- 3 (木) ~ 4 (金) 科学技術資料研修
< 於: 国立国会図書館関西館 受講: 自然科学系情報サービス係員 >
- 11 (金) 全国漢籍データベース協議会総会
< 於: 学術総合センター 出席: 人間科学情報サービス係員 >
- 14 (月) ~ 18 (金) 蔵書点検等のため臨時休館 (人文科学図書館)
- 15 (火) 第5回附属図書館運営委員会 < 於: 自然科学系図書館 >
職場における法律問題に関する研修会 < 於: 瀧川会館 >
- 23 (水) 第4回全学図書系系長会議 < 於: 自然科学系図書館 >
- 24 (木) 学位記授与式 < 於: ワールド記念ホール >
- 25 (金) 博士学位記授与式 < 於: 六甲台講堂 >
- 28 (月) 永年勤続表彰式 (退職時)
< 於: 図書館プレゼンホール 対象者: 2名 >